

「光る川」
池末 満

伝習生との
新交流会

若手同窓生の
交歓会

昭和蜻蛉日記

宮川早生温州
みかんのこと

母校訪問と令
和ゆかりの地
へ

杵屋勝国さん
人間国宝に



独立美術協会会員。久留米市三潞町田川在住。本作品は一本川シリーズの3作目。矢部川下流、水門近く、初夏の日差しが降りそそぎ、きらきらと光り輝く川的情景が描きこまれている。俯瞰、中段、遠方と多重視点を取り、川や景色に奥行きを持たせている。

「光る川」
（表紙・絵）

高21 池末いけすえ 満みづる

今年5月17日（日）、 伝習館東京同窓会総会を開催します！

伝習館東京同窓会の皆様、今年は2年に一度開催される伝習館東京同窓会総会の年です。300人近くの同窓生がホテルグランドパレスに会し、会場のダイヤモンドルームは柳川・伝習館一色に染まります。同郷の先輩とも話せるよき機会です。

最近の総会は若い人にも楽しんでもらえるよう、趣向が凝らされ、また郷土料理・地酒が振る舞われるなど楽しい会となっております。

一昨年に続き、原達郎氏の講演「続・柳川人山脈」、同窓会のプリマドンナ・金見美佳さん（高49回、東京芸大卒、二期会）の歌唱も楽しみです。お仲間を誘いあわせの上（会員でなくても伝習館にゆかりのある人なら可）、気軽にご参加ください。会員の皆様には詳細を書いたご案内が届きます。多数の参加をお待ちしております。

◆とき＝令和2年5月17日（日）

午前11時～午後2時30分

総会は12時、正午開催

◆ところ＝ホテルグランドパレス「2階ダイヤモンドルーム」

千代田区飯田橋1-1-1（地下鉄九段下下車）

◆会費 男性、女性ともに8,000円（予定） 学生無料

講演会（午前11時～12時）

講師＝原達郎（柳川ふるさと塾長・柳川観光大使）

テーマ＝続・柳川ひと山脈

お楽しみ抽選会

「御花」の1泊2食付き宿泊券、「ホテルグランドパレス」の食事券など多数用意。

・ふるさとの物産展では、有明海苔や貝柱の粕漬けなど懐かしい郷里物産の売店も設けられています。



原 達郎さん



金見美佳さん

第20号 2020.1.1

東京同窓会本部より

令和2年 年頭の挨拶	会長 白谷 政則	2
令和元年の東京同窓会親睦会		3
伝習生との新交流会		4
若者の参加促進を目的とした 新規交流会の開催に関して	高 63 佐藤 公治	5
学年幹事会の一年の活動	白谷 政則	6
東京同窓会収支報告書・親睦会会計報告書など		7
・ 賛助金ご協力状況報告		8
・ 賛助金通信欄コメント		9

母校便り

・ 進路実績と部活動報告		10
--------------	--	----

会報 20号記念企画

ダイジェストで振り返る 20号までの歩み	高 21 北島 正常	11
----------------------	------------	----

学年だより

・ 高志会	高 4 渡邊 喜亮	14
・ 29 (ふく) の会	高 5 阿津坂林太郎	15
・ 三稜会	高 6 石橋 修	16
・ 8回生 100名、柳川御花に集う	高 8 竹下 学	17
・ くっぞこ会	高 12 小野アケミ	17
・ 高 14 回同期会 in 柳川	高 14 黒田 喬	18
・ お能鑑賞会とミニ同期会報告	高 18 吉田シヅカ	18

先輩・後輩より

・ 毎年の母校訪問と令和ゆかりの地へ 柳川観光大使の集いと琴奨菊後援会	高 5 下河 秀行	20
・ 同級生の杵屋勝国さんが人間国宝に	高 14 高木 節子	22
・ 昭和蜻蛉 (とんぼ) 日記	高 2 小野 善睦	23
・ 柳川徒然草	高 4 小野硯一郎	26
・ 「宮川早生温州みかん」のこと 懐かしいふるさとの味	高 4 荒井健之輔	27
・ 夏の甲子園 100回の歴史と栄光の記録	高 5 江口 政司	31
【詩】河骨の花	高 14 井上 晴美	33

告知板

・ 原田万紗子さん、木村峯子さん、地方紙誌に紹介、柳川伝承まり & さげもの会		34
・ ゴルフ部会報告・二百周年募金への協力願い		35
・ 新刊紹介 「親子でつづる柳川の地名と町づくり」井上勇・井上靖士 「禁煙・受動喫煙教育新論」松尾正幸		35
編集後記 会報寄稿募集、広告募集、東京同窓会 Facebook、 幹事名簿など		36

傳習館



東京同窓会 会報

東京同窓会本部より

令和2年 年頭挨拶

伝習館東京同窓会
会長 白谷政則

明けましておめでとうございます。同窓生の皆様も令和の時代を新鮮な気持ちで迎えられたことと存じます。

昨年は親睦会を5/26（日）に、若手主体の交流会を10/26（土）に開催しました。いずれも別項に詳しくお知らせしていますが、親睦会は皆で集まれる会を毎年開いて欲しいとの多くの意見、交流会は修学旅行の行き先がシンガポールになったのに伴い若い同窓生と東京同窓会を繋ぐパイプ役と考え、学年幹事会で充分協議し実行致しました。概ね好評でしたので今後も継続したいと思っています。

今年オリンピック・パラリンピックの年で夏以降日本中賑わうと思いますが、伝習館東京同窓会では総会を5/17（日）に開催いたします。講師は前回に引き続き柳川ふるさと塾々長の原達郎様にお願いしております。懐かしい郷土の物産やアトラクション等々準備

しておりますので楽しいこと間違いありません。お友達お誘い合わせの上ぜひご出席頂き、ひと時伝習館時代に戻ってはいかがでしょうか？多くの方のご参加をお待ちしております。

伝習館も令和5年に創立200周年という節目を迎え、既に皆様のところにも記念事業の案内が届いていると思います。私達も歴史ある伝習館で学べた事に感謝し、これからの母校発展の一助に各自できる範囲で協力したいと考えております。

この会報も20号になりました。創刊号から読み返せば、運動部華やかりしころから諸先輩方の高度な知識、懐古的な投稿や写真、この頃は生物部の活動報告や皆様の趣味の世界まで幅広く硬軟取り合わせたバラエティーに富んだ会報で、東京同窓会の歴史の一ページであります。しかしながら会報発行には多大な費用がかかります。創刊当初は皆様の絶大なるご協力でも年間250万円以上の賛助金がありましたがここ数年は半分以下になっております。会報発行の他にも総会や親睦会、交流会を開くたびにそれなりの経費がかかります。同窓会は大勢の方の賛助で成り立っています。お知り合いの方にもお声を掛けて頂き、賛助金のご協力をお願いいたします。

さて正月があけたら早速総会の準備に取りかかります。先ずダイエットに励み健康な体で皆さんと会えるのを楽しみにしています。（準備とはこのことです）

皆様の健康と平和で穏やかな一年でありますよう祈っています。



令和元年の東京同窓会親睦会

令和に変わった年の5月26日、伝習館東京同窓会の親睦会が九段下のホテルグランドパレスで行われました。

爽やかな5月の気候とは程遠い30度超えの猛暑が連日づく中、またトランプ大統領が国賓として来日し警戒が厳しい中での開催でしたが、150人を超える参加がありました。

白谷東京同窓会会長、立花寛茂伝習館同窓会会長（NHK大河ドラマの招致活動状況、伝習館新入生は女子が6割、伝習館創立200周年事業への協力願いや等）の挨拶に続き、参加者最長老の宮本弘道氏（伝中48回卒、95歳）の澁刺とし

高16回の皆さん



高21回の皆さん



た乾杯の発声で親睦会は始まりました。

続いて成功裏に終えた前年の大同窓会（柳川）の石橋尚治郎68回実行委員長（高40回）ら二行のお礼の挨拶、さらには中村雄一郎69回実行委員長（高41回）による力強い大同窓会に向けた決意と呼びかけがなされ、一同くぎ付けになるひとコマも。頼もしい後輩たちです。

伝習館高校生物班を指導している木庭教諭と同期である池上英次氏が、日本水大賞・文部科学大臣賞や水産学会奨励賞を受賞した生物班の活躍を紹介。ニホン

ウナギの掘割サンクチュアリア化が進めば、ニホンウナギが柳川の掘割で大量に復活することが期待されると話してくれました。

高巢幹事からは出身中学別懇談、部活別懇談もテーブルごとに設けている旨の説明もあったが、前回同様、各人が先輩・後輩を探してはテーブルに向かい、自然に懇談する状況となりました。このほか発足したゴルフ部会ははじめ、陸上競技部OB、水泳部OBが次々に壇上に上りました。後半には西原幹事の名司会による有明漬（野菜・海茸・貝柱、高橋商店製、41回生が柳川から持参）の販売会も行われ、無事完売。岡田哲也さん提供のギリシャ産オリブオイルも各テーブルに置かれ、じゃんけん勝者が手にしました。親睦会の最後には4つの校歌が高らかに歌い上げられ、万歳三唱で閉会となりました。

今回は料理が各テーブルごとに盛りつけられ（業界では卓盛りと呼ばれる）、参加者からは、席をたち料理に長時間並ばずに済み大変良かった、また立ち歩かない分、話も弾んだと喜ばれました。年代テーブルごとに食事の消化具合が異なるため、過不足がでたのは致

し方ないことでした。またお酒を飲まない女性も多いので、ケーキやフルーツなどのスイーツがふんだんに用意され、こちらも好評。高巢幹事をはじめとした親睦会幹事は大いに株を上げました。次年は東京同窓会総会です。5月17日（日）、またホテルグランドパレスで会いましょう。

（北島）

伝習館東京同窓会親睦会



大同窓会の実行委（高41回）

伝習館生と新交流会を開催

3月28日、伝習館高校自然科学部(生物班)の生徒たちが日本水産学会春季大会で「柳川の掘割をニホンウナギのサンクチュアリにする研究」を発表、その研究・活動が評価され奨励賞を受賞した。東京同窓会では自然科学部の生徒たちの報告会と交流会を開催、東京・八重洲の会場に卒業生たちが集まった。

引率の木庭教諭と高校同期(35回)の池上英次氏がこの現役高校生との新交流会について説明。続いて生物班の班長・宮崎法華さんが図や映像を示しながら研究成果を発表した。

柳川掘割をニホンウナギの郷に再生する取り組み

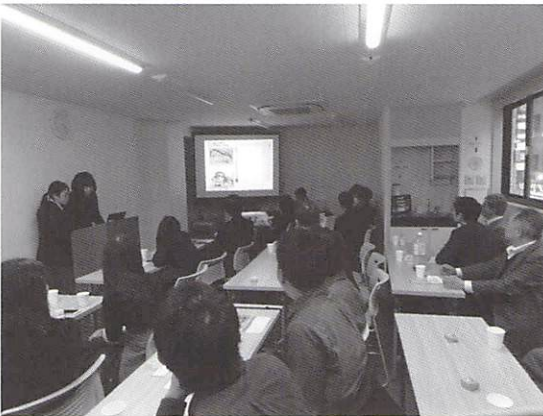
生物班では絶滅危惧種に指定されたニホンウナギの保護と掘割のサンクチュア



藤木将さん



木庭教諭



池上英次さん

リづくりを目指し、NPO法人SPER A森里海の協力を得て採捕・飼育・稚魚の標識放流に関する研究を行ってきた。宮崎さんは、かつてはニホンウナギがたくさん生息していた柳川の掘割で、ウナギと人との繋がりを紡ぎだしたいという思いを語った。生物班は矢部川流域で集魚灯に集まったシラスウナギをすくい、高校の水槽で環境実験。運動場の砂や落ち葉が生き残りに適していることを確認した。これまで2300尾ほどのタグを装着した稚魚を掘割に放流。その中から生物モニターで捕獲した51尾のニホンウナギにイラストマー蛍光標識で個体識別をして再放流し、どれくらい生き残っているか、生息状況を調査している。

また掘割のどこに生息しているか不明のため、柳川市報に「お尋ねウナギ」の広告を掲載し、市民からの情報を募った。市民に研究の目的を知ってもらうこととで協力が得られ、実際、各地で成長した放流ニホンウナギの目撃情報が寄せられた(7月21付の有明新報には53件の報告が寄せられたと報じている)。掘割と有明海をつなぐ水門、二丁井樋(にちょういび)が改修工事で閉じられ、シラスウナギが掘割の中に入ってこれないため、九州大農学部と連携し、4月にここに魚道設置して、その成果を調査している。

こうした活動により、掘割でのニホンウナギのサンクチュアリづくりへの期待も高まっている。このあと参加者からの質疑に対し、生徒や木庭教諭からの説明があった。この会は交流会も兼ねていることから、高56回卒業生で農業法人を営む・藤木将さんが、ベンチャー的な生き方について、これから社会人になる人を中心に語った。会場には就職を控えた大学生も参加、企業人をやめ、生き甲斐のあ

情報わいど

柳川 No. 10/1 October 2018

掘割でウナギを見かけたら連絡を

伝習館高校では、柳川の掘割でニホンウナギを増やす取り組みを平成26年から行っていて、放流した稚魚は2000尾ほどになりました。柳川の掘割のどのような場所で、どれくらい生き残っているのかを調査中です。小指大で30cm以下のウナギを掘割で見つけたら連絡してください。協力をお願いします。

柳川市報2018年10月号

市民を巻き込んだ新たな展開 ウナギの行方

2018年9月3日 伝習館高校 全長約55cmのウナギを目標

2019年5月19日 伝習館高校 全長約55cmのウナギを目標

2018年7月20日 ウナギを釣り上げたご連絡

放流したウナギが南部の水田地帯まで泳いで行き色々な場所で育っていることが証明!

2018年6月29日 目撃

2019年2月10日発見(2019年2月11日捕獲) 直線距離で3kmほどの水田地帯で発見!

針測日	2019年2月13日
全長	159mm
肛門長	59mm
湿重	3.2g
イラストマー	ピンク6カ所

2019年2月26日 捕獲場所の水路に再放流

**若者の参加促進を目的とした
新規交流会（仮名称）開催に
関して**

高63 佐藤 公治

東京同窓会では毎年9、10月に修学旅行で上京してきた伝習館生と交流会を行ってきた。交流会には毎回多数の大学生や新社会人も参加し、同窓会内での年代を超えた交流も盛んに行うことができたが、令和の時代の幕開けとともに、伝習館高校の修学旅行先がシンガポールに変更となり、若い世代との交流手段が絶たれてしまった。そのため、新たに東京同窓会への若者の参加促進を目的とした異世代間交流会（新交流会）を企画し、10月26日（土）に開催したので、それまでの道のりと当日の様子をご報告したい。

新交流会開催に向けて、まずは若者への事前調査会を今年の8月に行った。「折角集まるのであれば何か得られる会

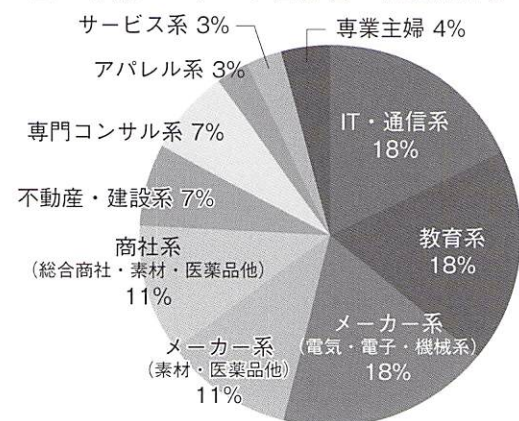


講演する梶島副会長

「どの様な交流会だ」と参加したいでしょうか？」をGoogle

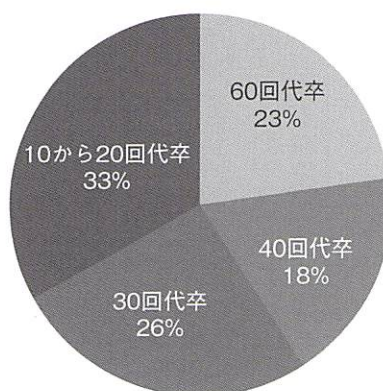
アンケートを利用し、電子アンケート調査を行った。アンケート、討議から見えてきた同窓会への期待

図2. 事前アンケート回答者の職業別割合



IT系、メーカー系（電気等）の60%は50歳以下だったのに対し、教育系は全員が50歳以上だった。

図1. 新交流会の世代別参加率 (39名)



Q、金魚すくい、ゲーム等）を絡め、身内（子供、孫）の参加を可とする。主婦業の人も参加しやすいようにする」などイベント開催、同窓生の家族、主婦業の同窓生も参加できるようにするとの意見が2つのグループから提案された。他にも「それぞれの趣味の文化会、サークル

にした。」「若者が集まりやすい昼間に実施して欲しい」との意見から、交流会の大まかなイメージを、若者と年長者の講演会を盛り込んだ昼食会とした。参加者はFacebookやLINEなどのSNSを駆使して募り、43名の方に参加表明をいただいた。そこで会場は、50人近く収容可能で、低コスト、昼間に飲食（アルコール付）ができ、さらにプロジェクト一貸し出し可能な「RESTAURANT for ETERNITY 銀座店」に決めた。最重要課題である新交流会の内容は、検討に検討を重ね、1. 東京同窓会に参加している人を知ってもらう、2. 同窓会に対する異世代間の考え、思いを知ってもらうことを目的とした会にすることにした。

目的1は「東京同窓会会員による東京同窓会のための講演」を企画し、梶島正司先輩（高16回）に依頼した。梶島先輩からは「すぐにご快諾をいただき、「何でも協力しますよ」と、とても心強いお言葉をいただき、準備を進めていく上での励みになった。目的2に対しては、「一つの課題を異世代間で話し合う討論会」を企画した。7つのテーブルを設置し、参加者を各テーブルに世代の偏りなく配置できるように、世代別のくじを作り振り分けることにした。さらに、当日の話し合いがスムーズに進行できるように、予め参加者全員に対して、事前にSNSから世代、職種、属性、そして「どの様な交流会だ」と参加したい

アンケートを利用し、電子アンケート調査を行った。アンケート、討議から見えてきた同窓会への期待

アンケートを利用し、電子アンケート調査を行った。アンケート調査を行った。



新規交流会参加の皆さん

をつくり、より接点を増やす」「世代別の同窓会を行う」「SNS等を使って会の情報発信を活発に行う」などの意見が出た。若い世代が話し合いに参加することで、今まで話題にならなかった、女性の参加や、子育て中の同窓生の参加を促すための企画、意見が出たことは注目に値する。最後は高巣先輩（高20回卒）の挨拶で閉会した。

新しい企画を複数取り入れたこともあり、不手際も多々あったが、最後まで盛り上げてくださった東京同窓会の皆様には感謝を申し上げます。新交流会で抽出された多様な意見が今後の東京同窓会の発展につながることを期待し報告を終わ

る。

文責（高37回卒 志牟田美佐）

学年幹事会二年の活動

高21 白谷政則

東京同窓会の一年（H.30.11～R.元10）

伝習館関係

H.30.11～会報19号発行の最終調整

H.31.1.1 会報19号発行

H.31.3/6（水） 学年幹事会

・会報19号について感想等

・名簿修正依頼（会報戻り分）

・賛助金の入金状況

・親睦会（5/26開催）担当者決め

・伝習館高校生物自然科学部が学会発表

の為3/28上京、大学生や若い世代との

交流会開催：有志で準備

・修学旅行生との交流会に代わる催しに

ついて意見交換

H.31.4/6（土） 学年幹事会

・親睦会のスケジュール確認

・交流会に代わる催し：具体的な提案

・3/28生物自然科学部との交流会：経過・結果発表

・当日の役割・人数確認

R.元5/11（土） 親睦会実行委員会

・参加者の予想人数

・式次第・名札等の印刷

R.元5/26（日）

伝習館東京同窓会親睦会

於：ホテルグランドパレス 148名

参加

R.元7/20（土） 学年幹事会

・親睦会収支報告

・親睦会の感想、改善等

・賛助金の入金状況

・会報20号について：宅配便が正月休みなので出来るだけ年内に届けられるよう準備している。

・会計報告は10月末とする。学年幹事会で承認

・新規交流会について：実務担当者選定

・東京同窓会のSNS化：学年幹事のLINEを始め、事務局↓学年幹事↓同級生とスムーズに情報を伝達する。当日より活用



学年幹事会の様子

R.元9/15（日）

伝習館大同窓会（柳川）

第69回伝習館同窓会

今年の講師は竹田恒泰さん（明治天皇の玄孫）で昨年に引き続き1000名以上

集まり御花の大ホールや中庭は大勢の人

でいっぱいであった。

R.元10/20（日） 学年幹事会

・総会（R.2.5/17開催）の実行委員

選出

・会報20号の進捗状況

・新規交流会（10/26開催）について説明

・本校200周年（寄付金等）について

R.元10/26（土） 交流会

詳細は別項

県人会関係

東京福岡県人会 同窓会協力委員会

20校30名で年6回定例会議を開催

H.30.12/1 就活を応援する会

伝習館卒の大学生の参加は無かった。

H.31.2/2 同窓会役員交流会

白谷会長、高巣常任幹事、吉開常任幹事

参加

柳川市関係

H.31.1/12～13 於 浅草

まるごとにつぼん 柳川フェア

東京同窓会会報にチラシ同封

R.元9/2～14 於『福扇華』（旧福

岡会館）

柳川フェア

学年幹事の方にメール

柳川フェア

学年幹事の方にメール

柳川フェア

学年幹事の方にメール

柳川フェア

令和元年度伝習館東京親睦会収支報告

令和元年5月26日(日)

於：ホテルグランドパレス

収入	ご祝儀	10,000	伝習館同窓会会長 立花様
	会費	1,027,000	7,000円 146名 5,000円 1名
	売店売上	60,000	ワゴンセール売上
	合計	1,097,000	
支払	宴会費	1,042,826	ホテルグランドパレス
	飲み物	44,815	カクヤス
	売店仕入	43,848	高橋商店
	振込手数料	540	同上
	コピー代	7,030	式次第・名札
	実行委員会	12,000	親睦会準備補助
	合計	1,151,059	
収支		△ 54,059	

親睦会当日の賛助金ご協力 27名 100,000円(一般会計へ繰り入れ)

※岡田哲也氏からギリシャ産オリーブオイル提供

平成30～令和元年度伝習館東京同窓会決算報告

平成30年12/1～令和元年10/31

収入	郵貯	834,000	賛助金 192件
	銀行	31,000	賛助金 7件
	親睦会	100,000	賛助金 27件
	預け金戻入	20,000	編集委員会預け金戻し入れ
	利息	2	銀行利息
	当期収入	985,002	賛助金 226件
支出	会報発行	1,039,878	会報19号製作費一式(発送費用含む)
	：	16,337	編集委員会資料取り寄せ(原稿依頼)その他
	学年幹事会	8,000	会議室使用料(駒込文化創造館)4回
	：	2,989	コピー代
	：	2,614	お茶代
	事務用品費	12,050	切手・ハガキ・USBメモリー他
	親睦会補助	54,059	5/26親睦会補助
	広告費	40,000	伝習館大同窓会(柳川)広告費
	県人会	18,000	東京福岡県人会同窓会役員交流会 3名
	口座徴収料金	24,040	郵貯振替口座徴収料金 192件
	印字サービス料	1,903	振替用紙印字サービス料
	預け金	20,000	編集委員会預け金
	当期支出	1,239,870	
	当期損益		△ 254,868

正月早めの会報発行に合わせ、原稿等の締め切りを10月末にしたので、会計報告も10月31日までとしました。

前期繰越金	2,315,769	
当期損益	△ 254,868	
次期繰越金	2,060,901	

【賛助金ご協力状況報告】

(平成30年12月1日～令和元年10月31日)

年初早く発刊したため10月末日で切と変更しました。(氏名は右から順)

卒回	氏名
高12	深谷悦子
高12	馬場敦子
高12	甲木宏明
高13	原田万紗子
高13	内山峯生
高13	尾崎カツエ
高13	甲木久美
高13	成清謙爾
高13	西山照子
高14	甲斐昌彦
高14	稲田洋子
高14	松岡健次郎
高15	後藤民子
高16	高椋正民
高16	黒田タエ子
高16	沓掛純次郎
高17	龍敏彦
高17	中島功
高17	宇木博己
高17	田中幸子
高18	緒方敬四郎
高18	吉田シヅカ
高18	古賀行夫
高18	三沢百合子
高18	細川正子
高18	福山博彰
高18	松村由紀子
高19	正岡善則
高20	諸藤由美子
高20	井口ちづ子
高21	佐藤邦恵
高21	森隆士
高21	下坂章次
高21	藤木由美子
高21	千代島道生
高21	蓮尾秀子
高21	今村國昭
高21	田中正司
高21	原田佐由美
高22	田島栄子
高23	竹内幸代
高23	坂本智臣
高24	田中知子
高24	松藤理恵子
高26	野口佳延
高32	咲村あかね
高35	山田英孝
高37	石橋泰光
高37	浦能行
高37	志牟田美佐
高64	佐藤公治
協賛0.5口	
高13	池末洋
高18	井上頼子
高19	白谷房子
高20	近藤敬介
高23	下田真知子

(1口 2,000円)

卒回	氏名
高13	尾田義昭
高16	水澤昭子
高16	松延日出美
高17	山本祥子
高20	田淵正
高23	樋口貴美子
高24	石川八重子
高34	真鍋和裕
協賛1口	
高2	池田國彦
高2	石橋慶孝
高3	田島順次
高3	臼井ヒロ子
高3	村井タカ子
高4	今村啓爾
高4	藤丸稔子
高4	椀島啓之
高4	石橋安男
高4	緒方常子
高5	原タカ子
高5	野口幹彦
高5	松永悦子
高5	武田八重子
高5	岸洋子
高5	大藪則子
高5	藤好享
高6	池田勝嗣
高6	本間洋子
高6	石橋修
高6	松永真侍
高6	牛島三津子
高6	森清旨
高6	古賀祥子
高7	田中敬之助
高8	中村清美
高8	樋口誠佑
高8	後藤享
高8	市川玲子
高8	甲斐田義春
高8	津留京子
高8	一色康子
高9	木村博子
高9	高橋雅子
高10	江口武
高10	大島喜代子
高10	古賀雄次郎
高10	高島早苗
高10	井上紀子
高10	大村平人
高11	鶴精三
高11	城島孝雄
高11	與田広巳
高11	原尻満子
高11	秋永栄子
高11	久賀朝文
高11	石橋秀男
高11	田島龍子
高11	木下淑子
高11	岡辰彦

卒回	氏名
高6	石橋修 / 戸上軍治
高8	川口融
高8	入部一郎
高8	豊島黎子(レイコ)
高10	東辰子
高10	松藤俊正
高11	樋口守
高11	近藤素子
高12	小野アケミ
高13	進藤達実
高14	高木節子
高15	乗富眞則
高16	近藤悦子
高18	川口秀喜
高18	十時理展
高18	満生英二
高20	高巢和登
高20	東寛治
高20	海東信子
高21	坂井友実
高21	西原正道
高21	中島和彦
高21	石橋一晃
高22	竜美代子
高24	大橋久代
高24	上田常子
高27	高橋圭介
高27	江崎友大
高27	藤木雄二
高28	吉開孝人
高40	有志
協賛2口	
高1	高石満之
高5	満生利代
高8	永倉正彦
高10	永倉素子
高16	金子修美
高24	山田直美
高27	松藤峯成
高30	橋爪政男
高35	池上英次
協賛1.5口	
中56	十時吉衛
女35	原ヒサ子
高3	木村朱水子
高3	柳澤一彦
高5	安藤祥介
高7	石橋一徳
高8	大村泰生
高8	池田孝人
高10	川口圭之
高10	中村紀子
高11	龍勝
高12	尾田常昭
高12	甲斐田静雄
高12	横山正和
高12	小畑夕工子
高12	野片義人
高13	田中利道

卒回	氏名
協賛25口	
高21	白谷政則
協賛10口	
高4	倉本博子
柳川ブランド 推進協議会	
協賛5口	
中57	近藤營治
高2	小野善睦
高2	河野健一郎
高2	山下武
高4	渡邊喜亮
高4	小野硯一郎
高5	岸栄洋
高5	下河秀行
高5	田中禮二
高6	戸上軍治
高6	川口鍊寿郎
高6	木村峯子
高7	中村奨佑
高8	内田由美子
高9	廣松洋一
高10	内山秀生
高12	古賀懿徳
高12	橋本富一
高16	椀島正司
高16	三小田雅美
高16	内村正月
高17	長瀬和子
高19	田中茂利
高20	岡賢二
高20	安永保
高24	酒見和平
高24	原英子
高27	友清寛
高32	濱武久司
高32	加東寛樹
協賛4口	
高14	池上登志男
協賛3.5口	
高3	高椋重夫
協賛3口	
中55	武藤徳一
高7	龍弘道
高13	岡部彰邦
高17	浦川邦憲
高18	江口吉光
高21	北島正常
高29	古賀宣明
協賛2.5口	
中55	江崎和夫
女47	作山ミツ
高2	吉川良平
高3	川島淳子
高4	荒井健之輔
高4	原勝子
高5	鈴木妙子
高5	江口政司
高5	中村義行

伝習館東京同窓会 賛助金通信欄コメント

中55 武藤徳一

会報楽しく読ませて頂いています。会の益々の活性化を期待しております。

18 吉田シヅカ

「しょんCHONのお話」山下様の学術的考察まいりました。昔は貧しい朝食の代名詞でしたが高級食材に変身「オキシトシン」で元気に暮らしましょう。

4 荒井健之輔

編集お世話様でした。同窓生をつなぐ会報です。交流が深まるような内容を皆で協力していきましょう。

13 原田万紗子

糸島に移住して1年がたちました。福岡方面においての時はご連絡下さい。

7 龍弘道

80歳の坂を越しました。昭和・平成を生き、今年が東京オリンピックの年。孫の成長を楽しみに生きる努力をしています。

5 鈴木妙子

会報19号もしっかり読ませていただきました。越山でのコンサートあんなにご苦勞されたのも知らず、亡き松永はま子さんと楽しく聴いたことを思い出しました。懐かしく感謝です。

23 竹内幸代

いつも有難うございます。

4 原 勝子

夫 原次雄(中51)は平成30年8月に92歳で永眠いたしました。長い間会報をお送り頂き有難うございました。楽しみに夫婦で拝見していました。

12 古賀懿徳

昭和37年より北九州へ関東で過ごしてきました。お世話になります。

6 戸上軍治

会報誌を正月に読むのが楽しみです。ふるさと塾原達郎塾長の講演は特に興味深く改めて拝読しました。続きを次回もお願いします。

5 松永悦子

昨年は盛大でした。進行も無駄なくよかったです。と思います。

6 川口錬寿郎

昨年暮同期会に出席し、三柱神社に伝習館の卒業生であることに感謝の意をこめてお詣りました。

女47 作山ミツ

盛会でよかったですね、ご苦勞様でした。あの坂が登れなくて、そして誰もツレがいなくて淋しくて出席できません。

21 白谷政則

赤字では東京同窓会が長続きしません。大勢の皆さんの賛助金の協力をお願いします。

23 下田真知子

柳川散策・辰巳屋の「昔ながらのチャンボン」帰るといつも食べています。母親の味とよく似ていておいしいです。

10 東辰子

表紙の裏面に私(辰巳屋)の写真があり、嬉しくて長男に見せました。これからも店を続けますのでよろしくお願いします。

16 梶島正司

ピカイチの同窓会会報です。北島編集長ありがとう!!

中56 十時吉衛

長い間ご送付いただき感謝しております。高齢のため今回限りとしてくださいますようお願い申し上げます。

8 津留京子

待つて正月を迎えます。伝習館永遠なれ!

6 牛島三津子

お逢い出来る日を楽しみにしております。今後ともよろしくお願い致します。

8 入部一郎

知床国立公園の入口に在住しています。旅行の折連絡いただければご案内致します。道内に在住の同窓生の方も。015317215456

5 満生利代

大阪在住。今後出来ましたら毎年東京同窓会の会報の送付お願い致します。

18 細川正子

会報いつもありがとうございます。いつも楽しんで読ませて頂いています。

6 森清旨

「伝習館東京同窓会々々報」有難うございます。毎号一字残らず拝読しております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

16 水澤昭子

いつも有難うございます。会報楽しみにしております。

21 千代島道生

伝習館21回卒及び柳川のご発展をご祈念申し上げます。

6 石橋修/戸上軍治

高6回卒三稜会学年幹事です。些少ですが賛助金としてお納め下さい。

16 沓掛純次郎

昨年9月神楽坂のサロンで作曲した2曲(北原白秋詩)を発表し大好評でした。

18 江口吉光

毎号柳川関連の情報を楽しみにしております。

2 山下武

会報19号ありがとうございます。同窓会にはなかなか出席できませんが賛助金を送らせていただきます。

21 北島正常

You Tube(帰去来で検索)に金見美佳さんリードで白秋の帰去来を歌う東京同窓会のひとコマがアップされています。郷土を偲びながら歌う皆さんの姿に感動です。

母校だより



伝習館高校は、平成21年度に策定された「県立学校施設設備計画」に基づき、老朽化した建物の建替えや耐震改修・内部改造により施設の再整備が行われ、平成22年度に基本設計の後、平成23年度から工事に着手し、平成30年度9月すべての工事が完了しました。

平成30年度進路実績 (H31.4) ()内の数字は合格者人数

国公立大学合格者 (前期・後期・推薦・AO) 95名			
京都大 (1)	北海道大 (1)	九州大 (10)	広島大 (3)
山口大 (6)	熊本大 (16)	九州工業大 (5)	福岡教育大 (6)
佐賀大 (20)	長崎大 (5)	大分大 (3)	鹿児島大 (5)
徳島大 (1)	埼玉大 (1)	東京外大 (1)	神戸市外大 (1)
下関市立大 (1)	都留文科大 (1)	熊本県立大 (1)	宮崎公立大 (1)
長崎県立大 (2)	大分看護科学大 (1)	滋賀県立大 (1)	会津大 (1)
新見公立大 (1)			
私立大学合格者 433名			
早稲田大 (1)	明治大 (1)	東京理大 (2)	法政大 (1)
東洋大 (2)	同志社大 (6)	立命館大 (17)	関西学院大 (3)
関西大 (3)	京都外大 (1)	京都産業大 (2)	近畿大 (9)
西南学院大 (75)	福岡大 (145)	など	
準大学校合格者 7名			
防衛大学校 (7) (最終)			
公務員合格者 2名			
福岡県職員 (1) 玄界町役場 (1)			

(伝習館だより) から

部活動実績 平成30年度

弓道部

- 平成30年度 福岡県高等学校総合体育大会 弓道選手権大会 南部ブロック予選

【男子個人】 6中1名・5中2名	} 県大会 出場
【女子個人】 5中2名	
【団体】 21中 第2位	
- 平成30年度 福岡県高等学校弓道競技 新人大会南部ブロック予選会
 - 【女子団体】 第4位 県大会出場

卓球部

- 平成30年度 福岡県高等学校総合体育大会 卓球選手権大会南部ブロック予選会

【男子シングルス】 第18位	} 県大会出場
【女子シングルス】 第23位	
【男子ダブルス】 第10位	
【女子ダブルス】 第7位	
【学校対抗男子団体】 第5位	
【学校対抗女子団体】 第3位	
- 第73回国民体育大会卓球競技 少年男子・少年女子の部 福岡県南部ブロック予選
 - 【男子シングルス】 ベスト4 1名 県大会出場
- 平成30年度 福岡県ジュニア卓球選手権大会 南部ブロック予選会
 - 【男子シングルス】 ベスト8 県大会出場
- 平成30年度 福岡県高等学校卓球新人大会 南部ブロック予選会
 - 【男子シングルス】 第3位 ベスト24 1名 県大会出場
 - ベスト32 1名 全国選抜県予選出場
 - 【男子ダブルス】 ベスト8

ソフトテニス部

- 平成30年度 福岡県高等学校総合体育大会 ソフトテニス選手権大会南部ブロック予選会
 - 【女子個人】 ベスト16・ベスト24 県大会出場

バドミントン部

- 平成30年度 福岡県高等学校総合体育大会 バドミントン選手権大会南部ブロック予選会
 - 【女子団体】 第7位 県大会出場

サッカー部

- 平成30年度 福岡県高等学校総合体育大会 サッカー選手権大会南部ブロック予選会
 - 第5位 県大会出場

陸上部

- 平成30年度 福岡県高等学校総合体育大会 陸上競技対校選手権大会南部ブロック予選会

【男子400m】 第4位・第5位	} 県大会 出場
【男子800m】 第7位	
【男子1600mR】 第5位	
【女子走高跳】 第5位	
- 平成30年度 福岡県陸上競技国体最終選考会 南部ブロック予選会

【男子A 400m】 第4位	} 県大会出場
【女子B 100m】 第2位	
【女子B 200m】 第2位	
【女子B 200m】 第5位	
【女子B 400m】 第3位	
【女子B 走高跳】 第3位	
- 平成30年度 福岡県高等学校新人陸上競技 対校選手権大会南部ブロック予選会
 - 【男子400m】 第4位 県大会出場
 - 【男子800m】 第8位
 - 【男子1500m】 第8位
 - 【男子5000m】 第8位
 - 【女子走高跳】 第7位
 - 【女子4×100mR】 第8位
- 平成30年度 新人ロードレース南部ブロック大会
 - 【男子ロード】 第2位

総合(空手)

- 平成30年度 福岡県高等学校総合体育大会 空手道選手権大会中部・南部ブロック予選会
 - 【個人形】 ベスト8 県大会出場
- 平成30年度 福岡県高等学校空手道新人大会 中部・南部ブロック予選会
 - 【個人形】 ベスト8 県大会出場

テニス部

- 第32回大牟田オープンジュニアテニス トーナメント
 - 【高校生女子シングルの部】 準優勝

車いすテニス(個人出場)

- 福井しあわせ元気国体2018 福井しあわせ元気大会車いすテニスオープン競技
 - 【男子シングルスC】 優勝
 - 【ニューミックス】 3位



弁論・放送部

- 平成30年度 福岡県高文祭放送コンテスト 筑後地区大会
 - 【アナウンス部門】 優勝、第6位、入賞 1名 県大会出場
- 平成30年度 福岡県高文祭放送コンテスト 福岡県大会
 - 【アナウンス部門】 入賞 2名 九州大会出場
- 第72回内閣総理大臣賞 全国高等学校 弁論大会(東海高等学校主催) 東海学園弁論部OB会奨励賞
- 第68回「社会を明るくする運動」筑後地区 青少年弁論大会
 - 【高校生の部】 優秀賞(第2位)
- 平成30年度 福岡県高文連筑後地区大会
 - 【アナウンス部門】 優勝・第6位・入賞 県大会出場
- 第33回福岡県高等学校総合文化祭
 - 【放送文化部門 アナウンスの部】 入賞 2名 九州大会出場
- 第40回九州高校放送コンテスト鹿児島大会
 - 【アナウンスの部】 優秀賞
- 第68回「社会を明るくする運動」筑後地区 青少年弁論大会 優秀賞

美術部

- 平成30年度 第33回高文連筑後地区高等学校 美術・工芸展
 - 【デザイン部門、絵画部門】 特選

書道部

- 平成30年度 柳川市美術展
 - 入選 9名
- 平成30年度 第33回福岡県高等学校総合文化祭書道部門筑後地区揮毫大会
 - 秀作 1名 県大会出場

自然科学部部門

- 平成30年度 日本水産学会春季大会
 - 奨励賞
- 2018日本ストックホルム青少年水大賞 第20回日本水大賞
 - 文部科学大臣賞
- 第4回全国ユース環境活動発表大会 優秀賞

演劇部

- 平成30年度 福岡県高文連筑後地区大会
 - 【演劇部門】 舞台美術賞

東京同窓会会報20号記念企画 ～ダイジェストで振り返る20号までの歩み

平成 15 年（2003 年）に創刊された伝習館東京同窓会の会報は、今回で 20 号（2020 年、令和 2 年号）を迎えました。江崎正直前会長の発案と、小野善陸編集長の着想により始まり 20 号まで続く会報は、東京同窓会の活性化や情報の共有、会員交流に少なからず寄与してきました。文才を感じる読み物、時の隔たりを超えて楽しめる読みものなど、皆さん創作力豊かで、さすが伝習館出身というところです。私自身、最初のころは意識して読んでなかったのですが、見返してみると、力作揃いです。今回、創刊から 20 号までの歩みをダイジェストで振り返ってみたいと思います。目を引いた投稿を中心に取り上げたので、全部ではありませんが、ご了承ください。

（まとめ・高 21 北島正常）

創刊号 2003・1・1

題字は伝習館高に掲出された創立者・立花鑑賢公の書の扁額から臨書。表紙の桜の絵は綿貫直諒画伯（高 14・在ローマ）の油絵

- ・東京同窓会を活性化しよう！
……江崎新会長インタビュー
- ・「東京同窓会」会報発刊に寄せて
……伝習館同窓会会長 立花寛茂
- ・東京に輝ける三稜の星たち1
……高3 副会長 松永肅
- ・「食育のすすめ」服部幸應氏の総会講演
- ・伝習館水泳部の最も輝いた日
……高3 酒井清行
- ・伝習館陸上競技部の最も輝いた日
……高28 吉開孝人
- ・優勝伝習館!校旗はいずこへ……高1 永江政勝
- ・伝習館掲示の源を訪ねて～中国江西省紀行……高17 立花民雄
- ・柳川へ 各駅停車の旅……高21 白谷政則
- ・東京で見られる柳川の下げもん……高10 永倉素子
- ・ふくの会、ムツゴロウ会など各年代より同期会の呼びかけ

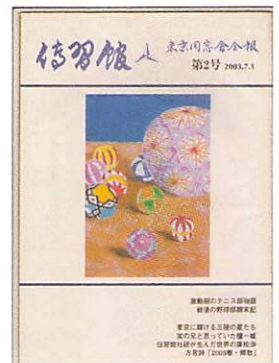
一言コメント 江崎新会長就任と共に同窓会会報の発行がスタート。創刊号だけに各年から原稿がよせられ、内容が充実している。小野編集長の名編集が光る。



2号 2003・7・1

- ・東京に輝ける三稜の星たち2
……高3 副会長 松永肅
- ・実の兄と思っていた檀一雄
……中53 古賀和典
- ・廣松渉と宮川武寿、龍昇吉 ～その人間関係の土壌
……中56 成清良孝
- ・こらホンナコツ、聞いてハイヨ!ヨカヤッカソ
激動期の伝習館テニス部物語
……高伝1 横山二三男
- ・野球部顔末記 1点差で逃した甲子園 その1
……高2 山田銀一郎
- ・小田原時代の北原白秋と「白秋童謡館」……高5 下河秀行
- ・追憶のメリナ・メルクーール ギリシャあれこれ
……高6 岡田哲也
- ・ホンニ不思議じゃったばんも
……高7 田中敬之助
- ・夏の八甲田山～父親の威厳は失われた……高21 白谷政則

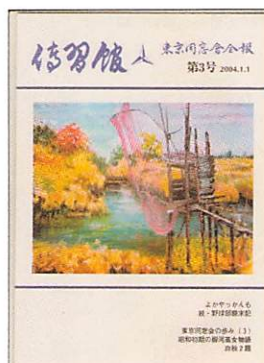
一言コメント 年 2 回発行の 2 号目には、檀一雄、廣松渉、北原白秋ら柳川、伝習館ゆかりの人も登場。知られざる人物像が描かれており、興味深い。



3号 2004・1・1

- ・東京に輝ける三稜の星たち
……高3 副会長 松永肅
- ・昭和初期の柳川高女物語（聞き書き）……高女31 跡部愛子
- ・年を重ねるほど懐かしい青春時代の思い出 よかやっかんも2
……高伝1 横山二三男
- ・白秋と禪寺丸柿（王禪寺）
……高2 平河智
- ・終の住処 阿佐ヶ谷時代の白秋
……高5 下河秀行
- ・壮年から熟年へ 五期会は25回目で閉幕……高3 酒井清行
- ・ギリシャあれこれ オリンボスの蜩……高6 岡田哲也
- ・望郷そしてムツゴロウ会
……高9 境延昭
- ・帰省ドライブ～国道1、2、3号
……高21 白谷政則
- ・毎日ファッション大賞受賞 同級生・加茂克也さんへのインタビュー
……高35 山口英治

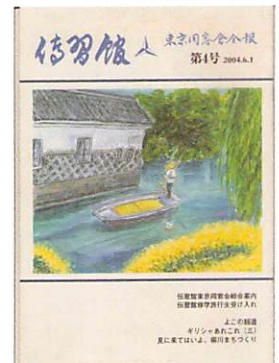
一言コメント よかやっかんもの横山二三男さんの思い出エッセーは毎回面白い。白秋関連が 2 本、東京での足跡が偲ばれる。学年幹事名簿もこの回から明示。



4号 2004・6・1

- ・修学旅行生受け入れ顔末記
……高2 会長 江崎正直
- ・東京に輝ける三稜の星たち～東京同窓会の歩み
……高3 副会長 松永肅
- ・思春期の実存的命題
……中56 成清良孝
- ・東京同窓会会報「伝習館」に出会えて……高6 江崎逸夫
- ・オナシス父子～ギリシャあれこれ
……高6 岡田哲也
- ・白秋と切支丹文化～ガルニエ神父との出会い……高5 今村直
- ・見に来てはいよ、柳川まちづくり
……高23 松石めい子

一言コメント この翌年、1 月半ばに修学旅行生が研修に上京、受け入れ準備の苦勞を江崎前会長が書かれている。昼の部、夜の部の企画、ホテルとの交渉など初の試みで大変な様子が窺える。



5号 2005・1・1

- ・総会の特別講演「高く遠い夢」……三浦雄一郎
- ・東京に輝ける三稜の星たち……高3 副会長 松永肅
- ・ウォーキングの効用……高3 高橋重夫
- ・そろそろ「ホールインワン」保険?……高9 橋本忠彦
- ・定年ボランティア奮闘記……高6 岡田哲也
- ・昭和ひとけた生まれの戦中記「橋蔭のちあり」より

一言コメント 集稿の苦勞の跡が見える。ふるさと瓦版には琴奨菊が十両昇進した記事が見られる。会報は今号から年1回の発行に。



6号 2006・1・1

- ・東京の輝ける三稜の星たち~東京同窓会の歩み……高3 副会長 松永肅
- ・知らなかった大先輩—伊藤整一提督……中56 松本一郎
- ・この一撃で歴史が動く、喝だ! よかやっかんも……高1 横山二三男
- ・「私立県立両伝習館に関する思い出の事ども」(75年記念誌より)……立花政樹
- ・昭和ひとけた生まれの戦中記「白雲なびく」より)……中56回 石川輝雄
- ・三稜会、くっぞこ会の同期会報告

一言コメント 横山さん絶好調! ふるさと瓦版には瀬高町・山川町・高田町の合併協議会スタートの報あり。琴奨菊は幕内に上がり、柳川観光大使に就任。



7号 2007・1・1

- ・総会特別講演「思い出の柳川」……松永伍一
- ・修学旅行生との交歓会……高2 会長・江崎正直
- ・我が中学「伝習館」……中41 高戸顕隆
- ・ド迫力!大満足!じくどる教員たちよかやっかんも……高1 横山二三男
- ・柳川サンイタテ来タバンモ……高女47 作山ミツ
- ・津留誠一彫刻展開かれる……高10 大村平人
- ・お返事は便りです お返事が頼りです……高21 白谷政則

一言コメント 白谷氏の報告は総会案内状の未返信が51%と半数を上回り、伝習館OBなら返事くらい出してくれてもいいのでは…迷いもあるが、というものでした。まことに。



8号 2008・1・1

- ・修学旅行生との交流会について……高2 会長 江崎正直
- ・東京に輝ける三稜の星たち サッカー部全国大会……高3 副会長 松永肅
- ・人間到るところ青山あり……中56 成清良孝
- ・野球部OB、マスターズ甲子園へ……高3 山本明
- ・永江秀作君を悼む……高5 黒田左右太
- ・知られざる柳川の星……高6 岡田哲也
- ・転機……高12 村上国子
- ・潮干狩りの思い出……高23 坂本智臣
- ・方言・表現・イントネーション……高7 田中敬之助
- ・青春のパイプライン……高18 福山博彰

一言コメント 新顔の投稿も入りはじめた。「知られざる柳川の星」では槍の達人・足達八郎、幕末の家老・十時撰津、陸軍中将・曾我祐津…書家・墨象の木村松峯まで柳川の隠れた星が表出されている。



9号 2009・1・1

- ・総会の特別講演「病気になる生き方」……高4 新谷弘実
- ・修学旅行生との交流会……会長 江崎正直
- ・江戸・東京の中の柳川を訪ねて……高2 平河智
- ・高3、1951年のドイツ語クラス……高3 白井朗
- ・身近にいる季節の野鳥たち……高11 龍勝
- ・柳川笑話……高7 田中敬之助
- ・特集「私の趣味・健康法」……高5 岸榮洋(囲碁)……岸洋子(ゴルフ)……高7 龍弘道(旅と写真)……高8 樋口誠佑(ゴルフと社交ダンス、書道)……高10 内山秀生(ストレッチ、テニスにオーブオイル)……高12 小野アケミ(水泳)……高13 田中利道(馬術、登山、水泳、ゴルフなど)

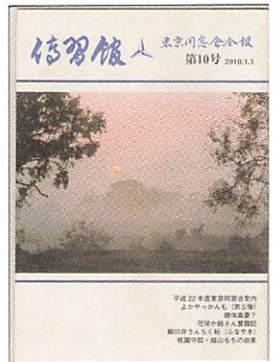
一言コメント ついに健康法が登場。新谷先生の講演「病気になる生き方」も含め、参考になる健康法が多くの会員から寄せられた。



10号 2010・1・1

- ・東京同窓会の歩み……高3 副会長 松永肅
- ・よかやっかんも 第5弾……高1 横山二三男
- ・花咲か爺さん奮闘記……高6 岡田哲也
- ・生きていく証 墨象との出会い……高6 木村峯子
- ・はじめての東京……高7 田中敬之助
- ・修学旅行「課題別研修」をお手伝いして……高8 樋口誠佑
- ・「趣味楽憂?」……高10 永倉素子
- ・春の内房線SLが走る……高11 龍勝
- ・青春のパイプライン 授業篇……高17 福山博彰

一言コメント 福山氏の「授業篇」は昭和40年代前半共通の授業風景が思い出された。高校・大学、世の中が変革期にあったこの時期は従順でいられない生徒も目立った。



11号 2011・1・1

- ・総会講演 柳川と立花家
……17代当主・立花宗鑑
- ・講演 伝習館と立花家-安東省菴頭
彰会……立花民雄
- ・修学旅行生との交流会・東京同窓
会の歩み……高3 副会長 松永肅
- ・顕彰 廣松渉……中56 成清良孝
- ・よかやっかんも……高1 横山二三男
- ・遠き日の思い出……高4 高士権兵衛
- ・柳川笑話2……高7 田中敬之助
- ・ガキの頃の思い出……高11 龍勝
- ・第60回伝習館大同窓会総会に参加
して……高8 樋口誠佑
- ・白秋自筆の絵はがき
……高12 小野アケミ
- ・青春のパイプライン 授業篇その2
……高18 福山博彰
- ・柳川だより 綿貫君の帰柳と暑気払いの集い……高14 黒田喬

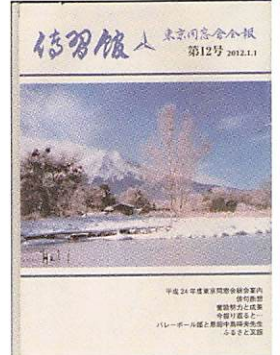
一言コメント 伝習館時の廣松渉について成清氏が活写。人物像がよくわかる。巻末には卒業年度別同期会活動状況が幹事名も入れて表に生まれ、わかりやすく紹介されている。



12号 2012・1・1

- ・東京同窓会の歩み
……高3 副会長 松永肅
- ・修学旅行生との交流会
……高18 福山博彰
- ・俳句断想……中56 成清良孝
- ・奮励努力と成果……高2会長 江崎正直
- ・乗り物笑話……高7 田中敬之助
- ・賛助金の納付に協力しよう
……高8 樋口誠佑
- ・独楽吟……高1 龍勝
- ・今振り返ると……高12 福本義人
- ・バレー部と恩師中島時夫先生
……高27 川口聡
- ・続バレーボール部余談
……高14 高木節子

一言コメント 男女とも国体に何度も出場するほど全国レベルの強豪だったバレーボール部と、指導者・中島時夫先生のことが会報に初めて掲載された。



13号 2013・1・1

- ・修学旅行生との交流会
……高18 福山博彰
- ・東京同窓会の歩み
……高3 副会長 松永肅
- ・学年幹事会Q&A……高21 白谷政則
- ・草野球と甲子園
……高3 高椋重夫
- ・私はこうして地域活動を始めた
……高5 下河秀行
- ・わが伝習館のスポーツの黄金時代
……高5 阿津坂林太郎
- ・北京・西安旅行記……高7 大藪成人
- ・夏の夜の夢~セミの脱皮
……高11 龍勝
- ・チタンの話……高12 野上一治
- ・大江の幸若舞と江戸人の貢献
……高14 松尾正幸
- ・6年ぶり甲子園出場……高21 白谷政則
- ・青春のパイプライン 映画篇1……高18 福山博彰

一言コメント 総会の時期と会場、出欠返信、賛助金に関するQ&Aを幹事の白谷氏が作成。伝習館野球部OBが2度目のマスターズ甲子園出場を果たす。



14号 2014・1・1

- ・「柳川御花」……漢詩 石川忠久
- ・「柳川好」……高2 斜庵・小野善睦
- ・追悼・松永副会長
……江崎正直会長・高5 岸榮洋
- ・修学旅行生との交流会
……高21 白谷政則
- ・バレーボール部裏話
……高4 倉本博子
- ・創立190周年と柳川観光大使
……高5 下河秀行
- ・どんと(ドンドン)焼き
……高11 龍勝
- ・ふるさと邪馬台国考
……高11 岡辰彦
- ・私の風の又三郎
……高14 高木節子
- ・白寿の母 柳川の想いで
……高12 滝口晴夫
- ・青春のパイプライン 映画篇1後篇……高18 福山博彰
- ・柳川市街の航空写真……高18 十時理展

一言コメント 東京同窓会の生き字引ともいべき松永肅氏が世界された。東京同窓会の歩みを記録にとどめたいという思いから連載は前号まで続いていた。



15号 2015・1・1

今号から内山秀生編集長

- ・総会講演「安東省菴と朱舜水」
……柳川古文書館・田淵義樹
- ・東京同窓会総会報告 修学旅行生
との交流会
……高21 白谷政則
- ・燦然なり!美熟女の集い
……中48 宮本弘道
- ・いま白井さんに、哀悼の辞を
……高4 渡邊喜亮
- ・立花家の「歴史をつなぐ3つの物語」
……高5 下河秀行
- ・復活されたドンキヤンキャン(風
流)……高10 内山秀生
- ・趣味を持ちましょう
……高12 馬場康子
- ・中年おじさん5人組のシンガポール紀行……高18 古賀行夫
- ・青春のパイプライン 映画篇2前篇……高18 福山博彰
- ・江戸ー東京 立花家ゆかりの地めぐり……高21 北島正常
- ・高校生との交流会に参加して
……高51 大曲由起子 高19 川口惇

一言コメント 宮本さんの「燦然なり!」に植ふみさんと母・ヨソ子さんが柳川高女の学友たちと共に登場。同窓生が結ぶ、人と人との奥深いつながりが感じられるひとコマ。

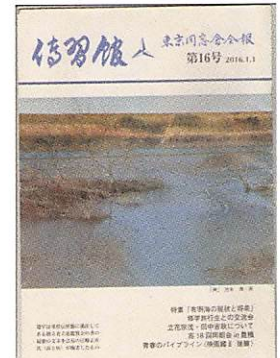


16号 2016・1・1

今号から北島正常編集長。表紙絵は池末満画伯の「洲」。共に高21

- ・修学旅行生交流会報告
……高51 大曲由起子
- ・特集「有明海の現状と将来」
……高35 木庭慎治教諭
- ・17代当主が語る立花宗茂の生涯
田中吉政について……高5 下河秀行
- ・高田町の新開能について
……高14 近藤新一
- ・青春のパイプライン 映画篇2
……高18 福山博彰
- ・二人だけの高尾山行き
……高12 小畑タエ子
- ・杵屋勝国ハワイ公演に参加して
……高18 高木節子

一言コメント 木庭先生の有明海再生の取り組みは注目された。木庭氏指導の高校生物班はニホンウナギの掘割サンクチュアリ化を目指しており、研究成果は高い評価を得ている。



17号 2017・1・1

- ・総会講演「中村天風の生き方に学ぶ」……尾身幸次・天風会最高顧問
- ・総会を振り返って……高27 高橋圭介
- ・「夏日漱石と伝習館の先輩たち」……高2 小野善睦
- ・特別寄稿「会長14年を振り返って」……高2 江崎正直
- ・琴奨菊優勝と柳川観光大使……高5 下河秀行
- ・裂き織について……高12 中島義枝
- ・総会で江浦会……高18 吉田シヅカ
- ・悲劇と喜劇の初舞台……高24 酒見和平
- ・わが望郷風物詩
- ・江崎会長時の功績—東京同窓会の改革と進展共に……高5 阿津坂林太郎



一言コメント 会長が白谷氏になり新体制がスタート。若手（といっても50~60代）への投稿を促した。寿命も着実に延びているので、同窓会ではやはり若手ですかね。

18号 2018・1・1

- ・修学旅行生との交流会
- ・フォト五七五「御花春秋」……高2 小野善睦
- ・自分史の一齣—海外への旅……高5 阿津坂林太郎
- ・久しぶりに帰郷し3つの感動を&雲龍久吉物語……高5 下河秀行
- ・古賀繁一元会長にお会いしたこと……高10 内山秀生
- ・青春を謳歌した楽しき10代……高20 高梨和登
- ・伝習館ドリル……高21 北島正常
- ・学ぶことを目指して……高21 千代島道生
- ・喜寿前祝同期会……高12 野片義人
- ・奈良に上村画伯を訪ねる……高14 高木節子



一言コメント 見てもらえ、読んでもらえる会報を目指しているが、小野氏の俳句を交えた「御花春秋」は自らの制作で秀逸な出来栄。脱帽ものです。

19号 2019・1・1

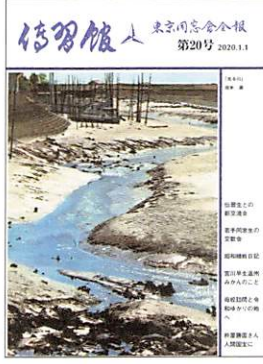
- ・特別講演「柳川ひと山脈」……原達郎・柳川ふるさと塾長
- ・総会を振り返って……高28 吉開孝人
- ・クラシック音楽を知り初めしあの頃……高4 荒井健之輔
- ・しょんCHONのお話……高2 山下武
- ・「刀剣不法所持」で逮捕されかけた話……高4 小野硯一郎
- ・わが母校、訪問記と柳川観光大使……高5 下河秀行
- ・三猿について……高12 野上一治
- ・白秋を歌い続けて70年 山本健二さん……高14 高木節子
- ・6年ぶりにマスターズ甲子園へ……高21 津村生二
- ・卒業60年と傘寿を祝う会……高8 大村泰生



一言コメント 白秋の「帰去来」ゆかりの話が会報の随所にでてくるので碑の写真を掲載。歌にも触れた。修学旅行生との交流会が最後となり、残念の声も多数。五木寛之さんのエッセーには伝習館への思いがつつられた。

20号 本号 2020・1・1

- ・昭和蜻蛉日記……高2 小野善睦
- ・宮川早生温州ミカンのこと 懐かしいふるさとの味（今昔）……高4 荒井健之輔
- ・柳川徒然草……高4 小野硯一郎
- ・夏の甲子園—100回の歴史と栄光 伝習館、幻の甲子園……高5 江口政司
- ・母校訪問と令和ゆかりの地へ・柳川観光大使の集い……高5 下河秀行
- ・同級生・杵屋勝国さんが人間国宝に……高14 高木節子
- ・会報20号記念企画 会報20号までの歩み……高21 北島正常
- ・詩 河骨の花……高14 井上晴美
- ・高志会、ふくの会、くっぞ会等同期会あれこれ



一言コメント 令和の新しい時代に20号を迎えた。母校愛、郷党意識は遠く離れて募るものと会報から見えてくる。今後とも会員に必要とされる限り、同窓会会報は続きます。SNS世代とのギャップを埋めながら。

昨年まで3年続けて、上野の森、西郷銅像傍の「旦那楼飯店」を会場とし久々に高歌放吟、カラオケも満喫したものでしたが、今回は、再び「花の銀座」に処を変えることにいたしました。これは、銀座5丁目のビルの7階に店舗を構える会食施設で、「東急プラザ銀座」になる前の外堀通りにある旧建物内に開店していたのがその前身であります。以前、懇親会に何回か利用したことがあったのですが、中央通に新規開店した現在、酒食に留まらずサービス全般にレベルダウンが見られる

高志会は今回銀座へ
高4 渡邊 喜亮

学年だより

かくて、われらが同期会も、実質上は関東に留まらない、全国に広がりをもつ会となってきたことから、全員賛同の下、関東という衣を脱ぎ捨て、新しく「高志会」として継承・発展させることに致しました。さらには、幸い、皆さんの好評をいただいたことから、翌年も「綱町三井クラブ」を利用することにし、これは福山恭介君に世話を

高4 4回卒の同期会「高志会」、今回は11月14日、趣向を変えて、銀座の「クルーズクルーズ」で開催しました。年齢の半ばを過ぎて、出席者が急に少なくなりましたが、16名と寂しくはありませんでしたが、全員まだまだ元気です。

のは少々残念でありました。思い起こすと、柳川での全体の高四会が2011年を以て解散し、福岡、大阪、名古屋等各地の高四会も徐々に幕を閉じることになりました。残るは東京で開催する関東高四会だけになり、2014年の傘寿記念の同窓会開催の際には、特に友人に頼んで、かの高名、豪華で知られる「綱町三井クラブ」を利用することとなり、福岡ほか各方面からの参加を得て、盛大な記念すべき同窓会となりました。最後に、白秋作詞の伝習館校歌や応援歌などを熱唱、広大な庭を三々五々散策して別れを惜しんだものでした。

のことは少々残念でありました。思い起こすと、柳川での全体の高四会が2011年を以て解散し、福岡、大阪、名古屋等各地の高四会も徐々に幕を閉じることになりました。残るは東京で開催する関東高四会だけになり、2014年の傘寿記念の同窓会開催の際には、特に友人に頼んで、かの高名、豪華で知られる「綱町三井クラブ」を利用することとなり、福岡ほか各方面からの参加を得て、盛大な記念すべき同窓会となりました。



写真前列左から、緒方常子、富永たか子、倉本博子、坂下静枝、井上真砂、今村小春、野田美奈子、後列左から渡邊喜亮、小野硯一郎、大津留孝、今村啓爾、梶島啓之、堤隆晴、溝田昌司、福山恭輔、荒井健之輔

お願いしました。この年は、全国の同期生に拡大して案内状を送付し、40名近い出席者のうち、柳川、福岡、長崎、名古屋、東北などから10名もの参加を頂き、往時の柳川での全体同期会が、まさに東京に異動した観がありました。この頃がわが同窓会の最盛期であり、その他、丸の内日本クラブ、上野精養軒、日比谷公園内の松本楼などでの懇親会も遠い思い出となってしまいました。

時は過ぎて、今年の高志会は関東以外からの参加者も少なくわずか1名に留まりましたが、特に、初めて福岡から坂下（旧姓安東）静枝さんが参加いただいたことは限りなくうれしいことでした。ただ、嘗て、遙々九州から出席してくれていた島田善介（RKB）、榎永知明（山の上ホテル経営）、本村正治（福岡通通信病院院長）、米永隆司（久留米大学理事、経済学部長）、森（旧姓藤丸）茂子（柳川市教育委員）などの各氏が顔をみせなくなったのが誠に残念なことではあります。さらに、残念なことと云えば、これまで荒井健之輔君が準備し、みずから主導してきた、白秋の伝習館校歌や応援歌、懐かしい童謡などの熱唱がかなわなくなったこともあげなければなりません。

我々も、いまや「玄冬の齢」に至り、同期の梶島啓之君の言によれば、これは、まさに「ロスタイムの人生」を過ごしている…というこのようであります。

これまで二十数年間、不肖、渡邊が懇親会の会場選定、案内状発送、会計など全体の世話を引き受けてきたのですが、昨年辞退をさせていただき、今更ながら喜んであとを引き受けてくれる人がいるはずもなく、今後は幹事全員で協力して進めていくこととなりました。「クラス幹事」として連絡にあたるのは、吉田佐紀子、中川彪、富永たか子、緒方常子、荒井健之輔（遠隔地）。「会場設営」倉本博子、渡邊喜亮。「会計幹事」井上真砂。……この先の人生如何

様になるや見極め難し。……同窓会も淡々と進めるほかなし。

「二九の会」報告と回想

高5 阿津坂林太郎

八十なかば天命を知る二九の会

昭和49年4月以降46年間、連綿として開催してきた二九の会は第39回目を最後に会を閉じることになった。これを機に、他の同期会の運営にも参考となる面もあるので回想を試みることにした。伝習館高第5回、昭和29年卒の29に因んで、首都圏在住の同期生会の名称を二九の会と称し、地元柳川の第5回卒同期生会と区別してきた。

この会のメンバーが入学したのは昭和26年で、9月に対日講和条約が調印されて、やっと世界の仲間入りを果たした年であった。在学中のトップクスといえは1年次には男子水泳部が水上高校東西優勝争奪戦で東の伊東高校を破って見事全国制覇を果たした。

3年次には横浜の三沢陸上競技場で女子陸上部はたった4人のメンバーで奇跡の優勝を成し遂げて、感激のあまり部長の立石勝美先生の雄叫びが

競技場内に響き渡ったという話は今では伝説となっている。

「二九の会」回想アラカルト

記念すべき1回目の二九の会は卒業20年後の昭和49年4月14日に地元柳川の総会に先駆けて、樺島啓之くんの粋なはからいで渋谷の中華料理店「獅子林」で開催され、40名の会員が結集した。4月29日には御花で初めての第5回卒同期会が



華々しく催されて二九の会のメンバーも

大挙押しかけて全国からの出席者は160名にも及んだ。この地元の同期会はおよそ3年毎に御花で催されて、平成23年6月4日の喜寿同期会が最後となった。2回目の二九の会は4年後の昭和53年4月9日に9組が幹事を受け持ち、泉鏡花作の婦系図の舞台、湯島の湯島会館で37名の参加を見た。3回目は7組が担当で坂田和穂君の紹介で、新日鉄代々木山谷寮にて、昭和57年4月11日の4回は9組が担当、目黒雅叙園で行われた。5回目から各組が担当して毎年開催となり、第39回目の昨年の開催で終止符を打った。この二九の会の開催は故郷柳川、母校伝習館、朋友たちに思いをいたすすすがとなり、時空を超えて懐旧の情に浸る、またとない機会であった。開催地も東京都心を中心で、特にホテルグランドパレスは松永肅君が在職していたこともあって最多の7回も会場となった。都心以外では横浜中華街で3回催したが、ユニークな会場としては横浜の奥座敷の鶴巻温泉・陣屋で行い、卒業50年と古希記念と銘打っただけに31名の参加を見た。この会では第24回「ふく会」号なる小冊子も配布された。その内容は出席者名、近況思い出報告、会員名簿、新旧校歌と、白秋とその音楽で構成されていた。この折の特筆すべき催しは古賀弘君の発案による卒業写真を用いたスライドによる自己紹介であった。この会には郷里柳川から江口陽二君と仙台からは3年次に甲子園行き切符をかけて熱投した安部正孝君が駆け参じて地元、各地域との交流も定着

していった。

本誌のバックナンバーを紐解けば二九の会関連記事は毎号のように登場する。昭和56年9月発行の週刊現代にもサラリマン四季報のコラムに「昭和29年卒伝習館高」が取り上げられた。同窓会会報創刊号には岸栄洋・洋子夫妻の筆による「ふくの会」と、さらに松永肅君の「東京同窓会」が掲載されている。松永君の執筆は9号を除いて「東京に輝ける三稜の星たち（東京同窓会の歩み、その1〜12）」が本誌13号まで連載された。第14号には江崎正直会長と岸栄洋君の松永肅副会長に対する追悼文が掲載されている。第5回卒同期生編集発行ものとしては同期会会報1〜8号も発行された。昭和29年卒業の543名が結集して編纂発行されたものに還暦記念誌「うぶすな」がある。B5判、329頁、バックラム装で中身は校旗・校歌・伝習館沿革、恩師編、同期生編、写真集・青春の思い出、同期生名簿などとなっている。

（閑話休題）

第39回 最後の「ふくの会」次第
期日 令和元年10月16日（水）
場所 品川プリンスホテル メインタワー 138階

司会 田中禮二、開会の挨拶 安藤祥介、亡き友を偲ぶ 坂田和穂、乾杯 岸栄洋

懇談約2時間、校歌斉唱、閉会の挨拶 阿津坂林太郎 遠来者 松石洋子（越山餅持参）、藤丸仁子、龍昌生（大分からカボス持参）、本吉湊（同期会報4号持参）

参加者は遠来者含めて22名であった。なお岸洋子さんから項目別の開催一覧表が配布された。人生百年時代の到来、これからは命あつての物種、お互いに健康長寿を願って、会の面々は三々五々家路についた。朋友諸氏よ、何時か、何処かで、また逢おうじゃないか。

高6回「三稜会」

高6 石橋 修

葉桜の4月17日、銀座のお寿司屋で三稜会を開催しました。出席者はとうとう一桁台に落ち込み6名でした。まだ私たちが現役で働いていた頃は名簿に70名を超す名前が連なり、北は北海道から、或



るいは大阪、名古屋から越境しての多数の出席者でにぎわっていたのに、高齢化の波にのまれ、参加者の減少に歯止めが効かなくなっていました。

今回は50名の皆さんに三稜会開催の案内状を郵送したのですが、宛先不在の返送が2名、返信なしの音信不通が14名、そして28名が欠席の返信で、欠席理由は殆どが体調不良、多くの諸兄弟が病院と仲良くお付き合いのようです。しかし「三稜会のご盛会を祈ります」との、皆さんからの添え書きには、世話人として救われた思いがしました。

集まりが芳しくないのは、幹事役の5名が旧山門郡や旧三瀨郡出身のいうなれば外様大名の幹事役だからで、城内小や柳河小から柳城中を経た譜代大名の幹事役がないから求心力がないのだろう。等々、諸説、珍説が出ての反省会となりました。そして出席者全員の話し合いの結果、三稜会は今回で打ち止めにしよという結論になりました。

西暦偶数年の5月に伝習館東京同窓会が、西暦奇数年の5月に伝習館親睦会が開催される予定ですので、これからは全体の伝習館東京同窓会に出席すれば、同期のメンバーに、毎年、会うことができます。三稜会の会計は残金5千円を高6回 石橋・戸上の代表名で伝習館東京同窓会の賛助金に協力して清算しましたので報告します。

時間いっぱいまで会話も尽きず、近所の喫茶店での延長戦となりました。森清旨君と岡田哲也君が高校時代のスナップ写真や卒業アルバムを持ってきてくれま

した。そのアルバム巻末にアルバム委員一同による編集後記があり、一部を抜粋すると「夢多き青春の渦中に伝習館の門をくぐりしより早三年……多難であり喜怒哀楽の連続である人生行路の最中に於いてアルバムのページをめくりながら……過ごしたあの幾月日を想いだし……」と格調高い文章がつづられていました。改めて高校時代のエピソードに話が弾みました。お互い固有名詞がなかなか出てこない年齢になり、「アレ・コレで済む同窓会」そのままながらも気楽で楽しい時間を過ごしました。

そして、「次年度からは伝習館全体と同窓会で会いましょう」との言葉を交わり、散会しました。

8回生100名、 柳川御花に集う

高8 竹下学

平成31年4月15日、全員傘寿（80歳）を迎えたことを祝って、第8回生最後の同期会を、柳川・御花で開催しました。当日は北海道、関東、関西、九州全域から約100名の出席がありました。当時の入学者は500名で連絡が取れたのは約300名でした。時の流れは早いもので卒業後62年が経ち、当時は北校舎と南校舎に分かれていたこともあって、名前と顔が一致しない方も多数ありましたが、希望に満ちみちていた学生時代の思い出、また現在の健康状態等について、



卒業後62年 伝習館高校 第8回生同期会

(2019年) 平成31年4月15日 於 御花

れており、ダイハツの軽三輪トラック（ミゼット）、自動二輪車スパーカブ号（ホンダ）が売れていました。高校卒業後は、就職した人、家業を継いだ人、大学へ進学した人と進路はそれぞれ分かれましたが、昭和39年には東京五輪が、昭和45年には大阪万博が開催され、私たちも昭和の高度成長の戦力となりました。

平成時代はバブルが弾け、山あり谷ありの厳しい競争社会の中を生きてきましたが、出席者全員80歳を迎えられたことに感謝し、今後は健康に注意しながらボランティア活動に勤しんでいきたいと思っております。

※柳川同期会には東京同窓会から男性10名、女性2名が出席しました。当日、多くの方から東京同期会開催

の要望があり、11月初には8回生東京同期会が開かれました。（東京同窓会学年幹事・池田孝人、一色康子）

喜寿・第35回くつぞこ会

高12 小野アケミ

関東や東北を襲った台風15号、19号、20号に見舞われた被害地は大変なことだと思えます。前回のくつぞこ会も風、雨が荒れの中での開催で、帰りが心配の中、帰途についたのを思い出します。

幸い、今回のくつぞこ会は10月27日、秋晴れの中、神田錦町の学士会館において正午から開催しました。出席者は遠隔地からの出席もあり39名（男性23名、女性16名）。二次会に組まれた「はとバス遊覧・パノラマドライブ」にも33名が参加しました。パノラマドライブコースは丸の内を起点に永田町、虎ノ門を経て、レインボーブリッジ、お台場、豊洲を回り、築地、銀座へと抜けるコースで、懐かしかったり、新鮮だったり。くつぞこ会もこの日ばかりは好天に恵まれ、楽しい東京遊覧のひと時を過ごしました。この後打ち上げ懇親会にも26名が参加、名残りは尽きないのです。

お辞儀して共によりけるクラス会
無病では話題に困る同窓会

（シルバー川柳から）

昭和56年に開催以来、30数年にわたって開かれ、今回で35回目。永く続いたくつぞこ会ですが、今回、学士会館から東京駅丸の内口のはとバス乗り場まで歩い

思い思いの話に花が咲き、時の経つのも忘れ大変やかな雰囲気で大いに開催することができました。当時は「もはや戦後ではない」と言わ



祝 喜寿くっぞこ会

令和元年 10月27日 (学士会館)

た方は15名ほど、あとの方は地下鉄、タクシーと70代も後半になると体力低下や不具合（かくいいう私も両ヒザを手術、杖が欠かせません）が気になります。皆さんの話し合いで、喜寿を迎えた今回あたりで、くっぞこ会を区切りとすることになりました。次回からは東京同窓会（5月17日）でお会いしたいと思えます。皆さまどうぞ健康に気をつけられ、元気な姿でお会いできることを楽しみにしております。

高14同期会 (in柳川)

高14 黒田 喬

第14回卒は、平成最後の同期会を平成30年11月17日、柳川・御花で開催しました。

当日は東京をはじめ、各地から馳せ参じた。おちこちの友、90余名が、

前回の古希の集い以来4年ぶりに旧交を温めました。

佐々木優幹事はじめ、お世話役の骨折りに感謝です。

卒業から56年、学生時代の思い出話に花を咲かせ、余興も出て盛り上がること2時間半、3年後の喜寿祝いでのを再会を約して散会となりました。その後、ほとんどのメンバーが思い思いに2次会へと流れていきました。

第14回卒同期会はおよそ4年ごとに柳川で開催していますが、地区ベースでも元気にやっています。特筆は福岡同期



会で、2カ月毎に20〜30名が集まって、九州人の熱気をたぎらせています。

18回生お能鑑賞会とミニ同窓会報告

高18 吉田シヅカ

I. 演舞

平成31年4月14日（日）の午後、その日もシテ御厨博子さん（18回生、名古屋在住）は凛とした佇まいで、三間四方の舞台を圧倒していた。

亜麻色の男袴、同系色の付け下げ訪問着を身にまとい、大鼓、小鼓、笛のお囃子と7人の地謡の前面で謡いだし、そしてスーッと立ち上がり、そのまま謡いながら舞い始めた。

演目は『砧』の舞囃子（面・装束を着けずに演じる）。

〔砧・衣板の意。布のつやを出したり、柔らかにするために布をのせて打つ木の台、またそれを打つこと〕

（以下のあらすじは、同日の松音会プログラムより並びに御厨さん解説）。

「夫が九州・芦屋から仕事のため都に上り、早三年、帰りを待ちわびる妻は、秋の夕暮れの寂しさの中で慰みに砧を打つ。遙か都の夫に届くようにと、寂寥感に充ちた砧の音が冴え冴えとした月明かりに響き渡る中、風の音、虫の音に交じって落ちる涙。

：怨みと失意の妻は終に病の床に伏し、不帰の人となってしまふ。帰郷した夫はそこで妻の死を知り、梓の弓にかけて亡き妻の霊を呼び寄せる。そして夫の読誦する法華経の功德によって成佛する、という世阿弥晩年の秀作能。」

「ここは文字通りの檜舞台。名古屋在住の彼女の演舞発表の場は一昨年「名古屋能楽堂」、昨年「銀座シックス能楽堂」、そして今年は渋谷「セルリアンタワー能楽堂」になりましたが、実は十数年間彼女の師匠だった泉嘉夫先生が93歳でこの1月に急逝されたため、東京遠征は今回が最後とのこと。観客100人近くを前に、天国の先生にもその舞姿が届く様、御追善の気持ちでこの舞台に臨んだという御厨さん、我々同級生は畏敬の念を持って、彼女の晴れ舞台を目に焼き付ける思いで鑑賞しました。素晴らしい演舞でした。

II. 普段の鍛錬

舞台で能を舞う御厨さんを見るにつけ、つくづく体幹の強さを感じました。

然もありません、博子さんは常日頃からスポーツジムに通い、筋トレで鍛えているそうです。

御厨博子さんの御指南↓ご一緒にどうぞ♪

「能の足運びは、膝を少し曲げて腰を落とし、足の裏を擦り付けるようにゆつくりとすり足で前に出し、つま先を上に向けた後、足裏全体に重心を乗せる。上体はわずかに前屈みにし、頭の位置は一定に保つ。両肘は武士道の防衛態勢に則りやや外側に張る。日常生活でも骨盤をしっかり立て、胸を開き、首筋を真っ直ぐにする綺麗な姿勢になります。」

「それと、能のお稽古は、動きながら謡うという二つのことを同時に行うので、筋トレ且つ高級な脳トレであると言えます



す。」

なるほど：ヨタヨタ暮らしの私には大いに参考になりました。

御厨さんの感想：

「皆さんの心強い応援のお陰で無事に舞い終えることができました。遠いところを駆けつけ、力づけてくれる友人がいて、とても嬉しかったです。じいさんと温かいものが伝わります。学校では話したことも無くて、あのように打ちとけ合えるのは何なんでしょうね？友だちは人生のたからもの！だなあとつくづく感じています。自分とまわりの人を大事に、じょうずに歳をとって行きましよう。皆様、ありがとうございます。」

III. 総括「打ち上げ会」

さてさて、これから「打ち上げ会」＝「ミニ同窓会」へ。

演舞後の博子さんをロビーで待つ私たちの方に彼女が小走りで来る。それを見て「おい、おい、さつきと随分違うな〜!」と、その落差に思わず口にしてしまう男子。この冷やかされたりするのも同期仲間ならではのホメ言葉。

皆でワイワイ言いながら明治神宮を散策、本殿に神妙にお参り。

宴の会場は学年幹事の満生さん行き付けの信濃町「明治記念館」の奥座敷「羽衣」、今日の日に何とピッタリなこと。御厨さんからお能についての話を聞きつつ宴の時は過ぎゆく。

これからの集まりは？との声が上がると、すかさず「5月は俺っちで食事会しようぜ」、「6月はこのビヤガーデンで一杯やろうぜ」、「7月は長野の別荘へ行こう」と提案あり、トントン拍子に行事予定・計画が完了（一応お酒の席の話なので、どこまでマジで覚えているのやら）。…などなど、6時過ぎから3時間たっぷり盛り上がりつつ終宴、全員で記念写真撮影。勿論、二次会へと続きました。

今回の集まりは、同期の代表幹事福山さんの声掛けで、11人がお能鑑賞、打ち上げ会には9人が参加。「一粒で2度美味しい」どころか3度も4度も美味しい素敵な一日でした。私たち18回生って、まとまりがいいですね。



左より：井上、吉田、満生、松藤、秦、御厨、石川、福山、森田（敬称略）
（企画・構成・監修 福山博彰）

最後に私事になりますけど、娘が仕事で単身赴任しているため、ここ数年間、孫の男の子の面倒は私バアバが見てきました。その子が今春めでたく念願の沖繩の大学に合格し、私のお世話係はやっと終了！。初別離（はつわかれ）バアバ毎日LINE（ライン）待つ。

ということ、今、人生70年目、さあ、これからは私の時間。同期の皆さん、どんどん誘ってくださいね。

《締め的一句…まご単立ち 老いの青春
これからよ》

先輩・後輩より

毎年の母校訪問と 令和ゆかりの地へ

高5 下河 秀行



伝習館第5回筑後地区同期会の写真

毎年、ふるさと柳川へ帰郷することが恒例になって随分長くなりました。今年

も約一年ぶりに、わがふるさと柳川を訪ねました。今回は帰郷の約十日前まで練馬区で私が代表をしている地域活動団体の『設立十周年記念のウイクリーイベント』を行ったばかりで大変多忙でしたが、六月一日は早くから楽しみにしていた伝習館高校第五回卒 筑後地区同期会に出席しました。幸い私が東京から空路到着するのを待つかのように記念写真の撮影からスタートしました。

この筑後地域での同期会（うぶすな会）に出席することは本当に久しぶりで、四十名の懐かしい旧友と会って、いろいろと談笑することが出来ました。あつと言う間に二時間が過ぎました。

私を含めて皆さん歳を召され、「それぞれの人生」を歩いて来られたことが手に取るように分かり、学生時代 青春を謳歌した、あの母校での懐かしい日々が思い出されて仕方がありませんでした。

翌日は、早速十六年間住んだことのある「第二の故郷」として親しみを持って太宰府天満宮に行き、久しぶりに太宰府天満宮に参拝し、境内では満開の菖蒲の綺麗さに、改めて感動しました。

その後、新しい元号【令和】の出

典の万葉集ゆかりの地と言われている坂本八幡宮や大宰府政庁跡など、いろいろの資料で学びながら訪ねました。

【令和】は、六五四年の「大化」から数えて二四八番目の元号になります。

大宰府政庁跡の近くにある大宰府展示館では、「梅花の歌」などを詳しく学ぶことが出来ました。万葉集の「梅花の宴」を記した『万葉集』の「梅花の歌」三十二首の序文にある「初春の令月にして、気淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫ず」などが新元号の出典の根拠と言われています。何と素晴らしい万葉の歌でしょう。

それに続き、その万葉集の歌会などを展示している小郡市西鉄三国ヶ丘駅近くにある広大な敷地の【九州歴史資料館】を訪ね。同館の学芸員により、いろいろな展示物や資料の説明を受けました。

三日目は、三年前の初訪問に続いて、早くからアポを取っていた母校伝習館高校を昨年も訪問し、平塚健士校長先生とお会いして母校の近況など、いろいろなお話を伺いました。未完成の正門も大変立派に完成していました。

素晴らしい校舎に六十五年前、私たちの学生時代の旧校舎で学んだ時の面影と重ね合わせながら感慨深いものを感じました。

ただ、平成30年まで母校の修学旅行が毎年、東京を訪れるにあたり、在京の先輩と生徒による交流会が行われていましたが、次年から世のグローバル化時代に従って、海外旅行に変更された。残念に思っている卒業生もいることを伝えまし

た。平塚校長先生のお話によれば、今年度から修学旅行は、海外の【シンガポール訪問】だそうです。時代だなど思いました。

しかし、生徒さん達にとって海外旅行は、視野を広げて、グローバル時代を強く生きて欲しいと願ってやみません。お陰様で一昨年の全新校舎見学に続いて、今回も校長先生と楽しく懇談することができました。

その後、今度は柳川市役所の金子市長を訪ねし、恒例により、この一年間の「柳川観光大使の活動報告」をしました。また、今後の柳川観光のあり方について、観光大使が、お互いに協力し合いながら何か出来ないのか、その結果、昨年九月二日には東京・半蔵門で、「柳川観光大使の集い」を開いていただくことになりました。柳川観光大使として横の



大宰府展示館で、博多人形師山村のぶあき氏制作の「梅花の宴」



駅伝の名付け親 武田千代三郎

「柳川観光大使の集い」と 琴奨菊後援会について

東京で「柳川観光大使の夕べ」

ネットワークづくりが大切ではないのか、また今後どのようなことを行っていくべきかなどを話し合ってきました。

それと、金子市長から昨年放送のNHK大河ドラマの「いだてん」に大日本体育協会副会長（配役・永島敏行さん）として登場する武田千代三郎（慶応三年＝一八六七年・三橋町柳河生まれ）が『駅伝』の名付け親であることを伺ってきました。彼は「立派なスポーツマンシップはどうあるべきか」を説いた郷土の先達で、東京大学卒業後、国の役人となり、秋田・山口・山梨・青森県などの県知事を歴任し、行った先々でスポーツの振興に尽力しました。

日本の武士道になぞらえて「競技道」と名付け、競技を通じて体と心と知性を磨くこと、正々堂々と懸命にプレーすることの大切さを説きました。その数々の功績は後世に残り、政界・教育界・スポーツ界などで名を残しています。

このように、今回の帰郷も、非常にハードな五日間でしたが、有意義な母校と、ふるさと訪問となりました。

昨年九月二日、東京・半蔵門「福扇華（ふくおか）」で、令和時代になって初めて「柳川観光大使の夕べ」が四年ぶりに行われました。今回は、新しく就任された三名の観光大使を含めて十六名が東京で一堂に会して行われました。

第一部は「座談会」で、まず金子柳川市長の挨拶から始まりました。次に、新観光大使の就任式と同観光大使の紹介と続き、「柳川観光の現状報告」と、続きしました。それに依りますと、柳川の観光客は、国内からは勿論のこと、海外からの観光客が年々増加の一途を辿っているようで、大変喜ばしいことです。

ただ海外客は韓国、中国、台湾、ベトナムなどからの来日が大勢を占めており、柳川に限りませんが、今年は日韓関係の悪化で韓国からの観光客が急激に減少していることが危惧されています。

次年は、五十五年ぶり待望の「東京オリンピック・パラリンピック」の開催で、海外から沢山の選手や観光客が来日します。これらを如何に柳川に誘致するかが大きな課題だと考えます。

第二部は「交流会」で、観光大使の自己紹介、及び近況報告があり、各自が観

光大使として活動していることが詳しく報告されました。

この度の「柳川観光大使の集い」は四年ぶりで非常に期待して参加しました。と言いますのは、東京オリンピック・パラリンピックを今夏に控えて、今後の観光行政は益々重要さを増すものと考えられる。国内は勿論ですが、今年度の海外からの観光客は4000万人になると予想されていますし、2030年は、なんと6000万人とも言われています。これらに如何にもなして対応していくかが大きな課題となると思います。そのためには他の都市にない特色を如何に

出すかが問われると思います。

それで私の柳川観光プロモーションの提案です。

- ① このオリンピック・パラリンピックに向けて「柳川観光はどうあるべきか」を考え活動。
- ② 旧立花藩の城下町 柳川観光の大きな目玉は何と言っても「柳川城」の復元だと思っています。
- ③ 何はともあれ、知名度が高い「詩聖北原白秋」を活かした企画をもっと立案していく。例えば白秋が初めてわが家（マイホーム）を持った小田原市と

【姉妹都市宣言】を結ぶ提携等。

- ④ 柳川にゆかりのある作家、檀一雄が3年後生誕100周年になるが終の住処 東京都練馬区とタイアップして「檀一雄企画展」を定期的に開催していく。
- ⑤ 有力ツーリストと提携し、白秋祭を始め「ふるさと観光ツアー」の募集活動。出来るだけ超格安旅費で実施し、現在通過観光都市であるのを「宿泊観光都市」を目指して行動する。
- ⑥ 柳川名物&名産を柳川出身者に、お買い物サービスとして10%の割引制度を創設する。
- ⑦ 今年秋には、いよいよ柳川文化会館（市民会館）が新規オープンすることになっている。柳川出身者や縁のあるアーティストに依頼し「開館記念コンサートや演劇」等を企画開催。
- ⑧ 令和五年には、いよいよ旧立



柳川観光大使の夕べ

花藩校「伝習館創立二百周年」を迎える。母校伝習館高校と共催で「伝習館の歴史を振り返る企画展」を開催する。また第十七回を迎えている「藩校サミット」の開催地として、令和五年誘致を図っていく。

⑨ 柳川と言えば、「立花家御花、白秋祭、川下り、ウナギのせいり蒸し、さげもん、有明のり」などが有名ですが、更に磨きをかけて「柳川名物のブランド」の拡大を図り、幅広く開発・PRしていく。

⑩ 現在、日中関係が少し好転しはじめま



佐渡ヶ嶽部屋千秋楽祝賀会で

した。中国の儒学者で医者だった朱舜水と、柳川で儒学者であり、藩校伝習館創設の礎を築いたとされる安東省菴のころ温まる交流を描いた「朱舜水と安東省菴物語」のドキュメンタリー映画化か、劇映画化を検討し、広く柳川市をPRしたら如何でしょうか。

佐渡ヶ嶽部屋 千秋楽祝賀会

昨年、九月二十二日には、大相撲秋場所が行われ（御嶽海が二度目の優勝）、佐渡ヶ嶽部屋千秋楽祝賀会に出席してきました。

地元柳川出身の郷土力士・琴奨菊の東京後援会が発足してから、もう随分経ちますが、平成二十七年一月、初場所で初優勝し、この時は結婚式、三十二歳の誕生日のトリプルの祝賀会で、お祝いがホテルニューオータニで盛大に行われたことは、まだ記憶に新しいことです。もし、連勝・準優勝していれば横綱昇進は間違いなかったのに今となっては残念です。

関東地域で、琴奨菊後援会東京支部は、毎年初場所・五月場所・九月場所の年三回、「佐渡ヶ嶽部屋千秋楽祝賀会」が、江東区東陽町ホテルイースト21で大勢のファンが集まって盛大に行われています。私たち後援会のメンバーは、毎回地元柳川出身の関取の「三役復帰」を願っ

て応援しています。所属の佐渡ヶ嶽部屋も最近では、前頭 琴勇輝、琴恵光、琴ノ若関が力をつけており、今後の活躍が大いに期待されており、楽しみです。

伝習館同級生の 杵屋勝国さんが 人間国宝に

高14 高木 節子

昨年5月、長唄三味線の杵屋勝国さんが重要無形文化財保持者・人間国宝に推挙され、7月2日、文科省から認定されました。勝国さんの磨き抜かれた名人芸と、長年にわたり長唄三味線界を牽引してこられた功績が認められたもので、同窓生一同心よりお喜び申し上げます。

勝国さんは瀬高町生まれで、物心ついたころには柳川市内の映画館や料理屋を経営する家で育ちました。三味線は隣家の女の先生、小学3年生からは電車、バスを乗り継ぎ1時間半かけて博多の杵屋寿太郎師の元へ通い、教えを受けました。伝習館高校2年時に七代目家元である杵屋勝三郎師に師事するため、柳川を離れ単身上京。玉川学園高に転校した後、東京芸大邦楽科に進まれました。歌舞伎界においては1980年、浅草公会堂において「鶯娘」「伴奴」で初めて立三味線（首席奏者）を務め、以後は坂東玉三郎、18代中村勘三郎の舞台で常時、立三味線を務められました。欧米にも公演にかけ、日本の伝統芸能を披露。また、杵勝会の理事長として一門を率いて

おられます。

昨年4月には杵勝会による全国大会が歌舞伎座で2日間にわたり開催されました。初日のオープニングでは長唄・三味線総勢430人による大合奏「元禄花見踊」がにぎやかに繰り広げられ、また2日目には囃子・鼓326人による三番叟組曲が行われ、こちらはギネス新記録を達成しました。杵勝会の大会では将来の古典芸能を担う子供たちや青年らの演奏も行われ、歌舞伎同様、伝統文化は着実に次の世代へ伝承されています。

柳川と白秋が育んだ勝国さんの感性

勝国さんと私は伝習館高校1年次の同級生で、本名は牟田口照国。高校在学時も三味線の修業はされていたのですが、私は同クラスながらバレエ部の練習浸りで気づかずじまい。勝国さんと仲の良かった佐々木優さんが牟田口家へ遊びに行ったら、勝国さんが三味線で当時流行った映画音楽「アラモ」「太陽がいつぱい」を器用に弾いてくれた思い出話をしてくれました。その後姿が見えないと思っていたら、東京に転校されたことを後から知りました。このことは同窓会会報14号に「私の風の又三郎」と題して、勝国さんの思い出を載せています。忽然と現れ、いつの間にか消えた「風の又三郎」のごとき存在だったのです。半世紀を経て、東京の同期会で再会を果たした時は、邦楽界の重鎮となられていました。再会後、私は杵勝会にお誘いを受け、今も長唄の稽古をさせていただいて



二世 柁屋 勝三郎 生誕二百年記念
長唄柁屋会 第十二回 全国大会 歌舞伎座公演 平成三十一年四月二十七日

は東京で暮らし始めて五十年経つ今も、柳川で過ごした子供時代が恋しくてたまりません。……幼いころから邦楽は生活の一部でした。自宅は店のすぐ近くでしたが、その辺り一帯がどこからともなく三味線の音色が流れてくるような粋な土地柄だったのです。

両親も長唄が好きで、よく母の奏でる三味線で父が唄っていました。息子たちにも音楽のすばらしさを教えたいと考えたのでしよう。当時、芸事は6歳の6月6日から習い始める物になると言われていたので、その慣わしに従って、私は隣に住んでおられた先生に三味線の手ほどきを受けるようになりました。牟田口家の4人兄弟の中では勝国さんだけが三味線が上達、以後芸道に励まれ、斯界を代表する存在となられました。

上京されてからも、故郷の記憶を手繰り寄せ、心の支えとされたようです。

「同郷の北原白秋は『水郷柳川こそ我が詩歌の母体である』と書き残しています。このことを作品に触れると、柳川の風情が鏝められていることに気づくのです。自分も

白秋と同じ空の下で、四季折々の美しい景色を見て、鶯の鳴く声や木々のそよぐ音を聴きながら育ったのだと思うと誇らしい。二十代半ばのころ、白秋の詩に長唄の曲をつけて柁屋会のコンクールで演奏して優勝したこともありました」（「よむカステラ」より）

勝国さんにとって柳川と白秋への思いは、今も途切れることなく続いています。故郷に恩返ししたいと帰郷公演も催されています。歌舞伎の博多公演の後、柳川に立ち寄って旧友と酒を酌み交わし、昔を懐かしむこともあると聞きました。

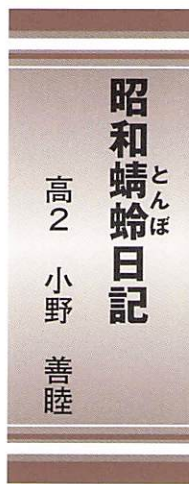
長唄を生活の場で見聞きする機会が少なくなつた今日、柁屋会では若い人の耳に馴染んでもらおうと、1曲20分ほどかかる曲を抄曲集という長唄のダイジェスト版に5分5曲くらいにまとめて演奏する試みもなされています。また、抄曲集は歌舞伎座の舞台装置を駆使し、聴覚、視覚で楽しめるよう構成され、多くの人



人間国宝、柁屋勝国さん

の関心を集めています。伝統に新風を吹き込みながら長唄三味線発展のため精進される勝国さんの、今後のご活躍とご健康を心よりお祈りいたします。

※長唄は300年ほど前に歌舞伎の伴奏として成立した三味線音楽で、ひな壇に並び舞台を盛り上げる「出囃子」、芝居の情景や登場人物の心情を伝える「影囃子」を担当します。柁屋勝国さんは歌舞伎公演でこの立三味線（三味線の首席奏者）を務めます。



平安時代の古典に『蜻蛉日記』（かげろうにつき）という作品があるそうだが、昭和も今や昔々になりつつある。

本稿はトンボ大好き少年の昭和十五年（1940）前後、小学生頃の柳川のトンボたちとの交遊録である。

先ず蜻蛉を詠った漢詩を一首

渡水紅蜻蛉 水を渡る 紅蜻蛉

傍人飛款款 人に傍うて飛ぶこと款々たり

但知随舟輕 但だ舟の軽きに随うを知って

不知舟去遠 舟の去つて遠きを知らず

水辺を渡って来た赤とんぼ、舟の上の人の

傍をゆつくりと飛んでいる。軽やかに進む

舟についてきているが、舟が随分遠くへ来

てしまったことには気づいていないらしい。

これは今から千年位前の中国、宋の時代の梅堯臣という人の詩であるが、この

います。勝国さんが「よむ、カステラ」（松翁軒発行）に柳川時代のことを書かれているので、紹介させていただきます。「故郷というのは実にいいものです。私

詩を読む度に、今の柳川のドンコ舟での川下りの長閑な情景を思い浮かべる。

余談になるが、令和になって日本トンボ学会の会員になった。本当はトンボに關しての学問など持ち合わせていないので、トンボ同好会位が程よいのであるが……そんな同好会はない。漢詩の方は、二十五年位前から親しんでいて、全日本漢詩連盟の会員である。

『滅びゆく日本の野生生物』という二十七年前行の本には既に二十二種のトンボが収録されている。現在では更に増加しているだろう。トンボも、漢詩も、今や絶滅に向かいつつある同類で、滅びゆくものに哀惜の念を持つのは筆者自身のトシのせいかもしれない。

本誌十一号に龍勝氏（高口回）がヤマ釣りの事を書いているが、同じ柳川でも昭代村と我が糺屋町では、僅か二キロ位か離れていないのに、トンボの呼称が



赤トンボ

違っていたようである。

- ・ギンヤンマ→ダンマ→ホンナイ
- ・チヨウトンボ→カラカラヘンブ→水兵
- トンボ（昔の海軍水兵のラップズボンと背中までの広い襟の、いわゆるセーラー服姿から？）
- ・コシアキトンボ→チンダイサン（鎮台さん？）→ヘイタイトンボ（兵隊）

ホンナイ釣りの方法は龍氏の記述通り、先ず捕獲した囀のホンナイの胴体を糸で結わえ、一方の先を竿に繋ぐ、どちらも長さ一メートル前後。これを持っておおかたは夕方、田圃の畦などで回す。田一枚に一匹の割でオスのホンナイが飛んでいる。大声で



「ホンナイ！ホンナイ！ホンナイヨー！」

と叫びながら回す。

飛んでいるホンナイが、縄張りを荒らしに来たと、囀に襲い掛かる。囀がメスだと直ぐに交尾する、交尾する瞬間地上に二匹が絡まって落下するところを捕獲する。囀がオスだと排除しようと襲い掛かる。この場合は、二匹が絡まって落下する時間が短いので、さつと瞬時に捕まえないといけない。要は囀のホンナイはメスの方が良いということだが、この囀ヤンマの捕獲には苦労した。

胴体の帯の様な色彩、オスのブルー、

メスの黄緑は魅惑的で美しい。見飽きない。

夕陽は大きくて真っ赤だった。

トンボ捕りの用具は、トリモチ、補虫網、蜘蛛の巣、ヘートリ紙（蠅取紙）のねばねば等だが、貧乏少年たちは対象のトンボや捕獲場所に応じて色々工夫した。

トリモチは大人たちがメジロ刺しに用いたものの残りを貰うのだが、粘着力が強く、トンボの種類によっては、くっ付いた翅等を破損することもある。主にセミ取りに利用した。

補虫網は当時、ナイロンとか化学繊維の無い時代でも高価だった。器用なお母さんの家の子は薄い布地で作って貰っていたが、大方は魚捕りのタモを兼用した。

蜘蛛の巣は、竹の先にピンポンのラケット状の輪を取り付け、そこに蜘蛛の巣（囀とも網とも）の蜘蛛の糸を巻き取り、ネットを作る。これでトンボをペタッと押さえると捕獲できるが、枝や葉の間に止まっている奴には対応できないし、濡れたり、時間が経つと粘着力が低下するのが欠点だった。蜘蛛の巣はキンコブ（キンは黄金色から、コブは蜘蛛の方言）と呼んだ女郎蜘蛛の巣が最良だった。



ヘートリ紙は各家庭にあつて卓袱台の



ハグロトンボ

上の笠状のハイラズ（蠅入らず）へ掛けかけてあつた。A4位の大きさの紙が二枚貼り合わせてあつて、それを剥がすと内側が油状の粘性のあるねばねばがついている。これを二メートルくらいの竹竿の先端部分の十センチ位の箇所巻き取るとトンボ捕り竿の完成である。

ホンナイは昼間でも堀の藻などに止まり産卵したり休んだりしている。それを捕るのには主にこの竿を使った。

その頃はまだ農薬も殺虫剤もなく自然が豊富で、夏には沢山のトンボが飛んでいた。シオカラトンボ（ムギワラトンボ）などはそこら中において、肩や頭に平気でとまって来た。赤トンボも種々いたが色が赤ければナツアカネもアキアカネもシヨウジヨウトンボもハッチヨウトンボも、みんな赤トンボ。イトトンボも同じで、長く細ければみんなイトトンボだった。これらのトンボは少しも珍しくないので捕まえたりしなかった。たまに右

手でグルグル輪を描いて目を回したやつを捕まえたが、すぐに放した。ただハグロトンボだけは珍しく、初めて矢部川沿いの浄水場の細流で見たのは小学校の遠足の時だったが、何ともゾクツと来るような幽玄な姿に大感激した。

皆さんご承知の通り、水田地帯の灌漑用の堀や、水城と呼ばれた柳川城の守護用の内堀・外堀・裏堀などが縦横に走っていたことがトンボ生息の環境に適していたのだと思う。特に旧柳河町の狭い街中には五十五ものお寺があり、当然それぞれ墓地があり、墓石の前には花立てや線香立てなどの雨水の溜まる場所があり、そこにはトンボの大好物の藪蚊がうじゃうじゃ発生した。「柳河の蚊は散弾銃で撃たなきゃ…」などと言われている。加えて各お寺には泉水があり、落葉の溜まった浅い池はヤゴの生息に最適な環境だったのではないか。

トンボ捕りは、ヤンマを狙う。オニヤンマなんか飛んでいるのを見るだけで、ブルブルッと震えが来る。だが、とても捕まえられない。これ見よがしにホバリングしてから悠々と飛んでゆく。王者の風格があった。たまたま、オニヤンマを捕まえた子は、忽ち町のヒーローである。

クワガタ（ウチワヤンマ）写真下）も大型のヤンマで虎柄の縞模様が美しい。家の西側は母の小さな菜園、その合掌型の竹の支柱に胡瓜の蔓が伸び、天辺まで届きそうな頃の夕方、何気なく見るとクワガタが群れて飛んだり止まったり、団扇状の尾を開いたり閉じたり、近寄っ

ても逃げない。集団見合い中だったかな？

取って返してタモ網で何匹か捕まえ、ヤッターと叫んだ。

夕陽は大きくて真っ赤だった。柳川の夏は七時半頃まで明るい。この間、黄昏飛翔性のトンボの天下だし、同じく少年たちも黄昏飛翔性で、なかなか家に帰らない。母親達も「トンボとり今日はどこまで行つたやら」と、大らかだった。

大人になったら、宵闇飛翔性？に転換したようで、勤務時間が終わる頃には、一杯仲間、麻雀仲間、カラオケ仲間など、誘い合つてなかなか家が遠かった。

ある日の夕方、鍛冶屋町のテンソツサン（天叟寺）にヤブコシが集結しているゾとの情報が入る。一級下のヒロシ君と二人で二メートル位の竹竿とヘートリ紙一枚を持って境内へ潜入。瑞松院との境

の樹林の梢に群がっているのを発見した。ヒロシ君がヘートリ紙を掲げ、私がネバネバを竿の先端に巻き取る、急げ！急げ！……。

梢にとまっけているヤブコシの背中を狙って竿を押し付ける。できるだけ翅にネバネバが付着しないように……、次々と十匹くらい捕獲。大成功である。傷つけないように、二人の指の間にヤブコシの翅をたたんで、そつと持って帰る。たちまち町中の子供たちに取り囲まれ二人はスターになった。

ヤブコシは他のヤンマと違って翅も体も油を塗ったようだ。アブラゼミの様な油色の翅、胴から尾にかけても濃淡の油色の何とも言えない綺麗な模様があり、また個体によっても微妙に違う色彩で、飽きずに見とれた。

夕陽は大きくて真っ赤だった。捕まえたヤンマは、家に持ち帰ると、明るいうちから六畳間に蚊帳を吊って貰い、その中に放つ。ゆつくり観察して翌朝、外へ逃がしてやった。

平成二十九年七月、茨城県自然博物館で開催の昆虫展を観覧し、七十年振りにヤブコシと再会した。が、なんと、名前がマルタンヤンマ（写真右）と表示してある。なんともよそよそしい。日本のヤンマなのにそぐわない。名前の由来を調べ始めた。日本古来の名前、例えばオニヤンマ・ギンヤンマ・ウチワヤンマ等々の様な日本のヤンマにふさわしい名前はないのかと。前記、茨城県自然博物館を



ヤブコシ=マルタンヤンマ

初めとして国立科学博物館、自然教育園、名和昆虫館、東京大学昆虫学研究室、個人のトンボ研究家等に照会し、またマルタンヤンマと献名されたという明治三十年以前の蟲譜・蜻蛉譜・蟲多帳・絵図等も市・県・国立国会図書館などで閲覧したが未だに分らないでいる。

今は会う人ごとにマルタンヤンマの写真を見せ、子供の頃、何と呼んでいたか尋ねている。方言でもいいから、相応しい名前がないか探し続けて行きたい。

「終」、令和元年九月、

調査の過程で柳川市立図書館から紹介された本。著者は伝習館（高校22回）と柳河小学校の後輩の野田英作氏。故郷の自然が彷彿とする。乞うご一読。

『川の自然文化誌・矢部・星野川流域を歩く』

有限会社権歌書房・2018年3月刊



クワガタ=ウチワヤンマ

柳川徒然草

高4 小野硯一郎

(平成十二年に四十五年振りに柳川に引き揚げて来て、感じ事ども書き綴れり)

『その一』ランチに味噌汁

柳川の母が九十三歳になったので、一人で置いておく訳にもゆかずに、大阪から妻と二人で柳川の実家に引き揚げて来て、母と三人で暮らすことになり、我々は二人で自由に外出も難しく、まして二人で外食に出かけるわけにもゆかない。しかも母の嗜好に合わせて食事は毎回ほぼ完全な和食なので、偶にはレストランで洋食を食べたいと思っていた。

先日の昼前母が日課の散歩から帰って来るなり、「今日は渡辺さんたちとカンポにお昼に行く」と言う。母より一つ下で九十二歳の近所のおばあさん、それに八十八歳の由布さん、永いお付き合いの仲のいいお友達である。

この三人は月に一回はタクシーを呼んで一緒にあちこちとお食事(昼食)に行くのが楽しみだとは聞いていたが、今日はどうも散歩の時に由布さんの所に立ち寄って三人で話が決まったらしい。カンポとは簡易保険柳川センターの事である。



柳川水門橋(藤吉校前より)硯画

すると今日の昼は母が居ないので、しめしめ妻と二人でレストランに行つて、洋食でも食べようと直ぐに一決。

さて、何処に行くかだが、以前二人で散歩がてら買い物に行つた時に見かけた「フランス風惣菜店ブローニユ」という、入り口に色褪せた三色旗を出してある、小さな名前だけは洒落た、余り客がなさそうな店が頭に浮かんだので、そこに行つてみた。

店に入ると女の一人客がいた。中はまあ小奇麗で、気の利いた小さな絵が二、三掛けてある。メニューを見ると「日替わりランチ」千五百円、味噌汁・サラダ・肉か魚料理・ご飯とある。何か可笑しくて二人で首を傾げながら、ウエイトレス風のおばさんに味噌汁ではなくスープはないかと聞くと、ないと返事。ご飯ではなくパンはと聞くと、あるが別料金三百円だと。仕方なしにこれを注文して待つている間に、まさかお箸が出てくるのではと気にしていたが、流石にナイフとフォークが出て来てほっとした。

料理の味はまあまあであつた。我々の後二人と一人の客二組が入つて来たが、注文は三人とも「焼肉定食」であつた。ここでは焼肉定食もフランス風なのだろう。

勘定する時、ランチに何故味噌汁かと聞いたら、開店当初はスープにしていたが、お客の要望が多い味噌汁に変えた由。

このオーナーシェフは福岡でも老舗の西鉄グランドホテルに居たと言う。

柳川の実情を見た感がしたが、また何故かこの店の主人が可哀想に思われた。多分柳川では本式のフランス料理店は初めてだと希望をもって開いたのであろうが、店を開いてみると事とは異なり、お客の要望に添わざるを得なくなつたのだろう。

この柳川で店を守つてゆくのは大変だろう、しかも少し洒落た店ほど難しいのではなからうか。

そして店の名前を「フランス風」とした意味が判るような気がした。

「フランス料理」と銘打つて、まさか味噌汁を出す訳にもゆくまい。

しかし、客は味噌汁を好む。そうすると開店した後で、不本意にも「フランス風」としたに違いない、と色々と同情にも似た想像が浮かんでくる。

また我々は、これから母たちの予告なしの外食の時だけ、やっとレストランで「洋食風」の食事にありつける事になりそうだと諦観した次第である。(完)

(平成十二年十二月 記)

：追期・この店はその後十年ばかりは営業していたが、その後理由は判らないが到頭店仕舞いをした。

平成三十年記

「宮川早生温州みかん」のこと

高4 荒井健之輔

旧山門郡城内村（現柳川市）の坂本町（日吉神社の北側）に宮川家の家屋敷があった。生垣に囲まれた広い屋敷だった。大きな屋敷の割には飾らない門があった。中に入ると左に大きな主屋があり、右手に畑が広がっていた。屋敷の裏は堀

に面して、門から入った突き当りには堀際に納屋風の作業小屋があった。その中に堀に向って石段状になった汲水場があり船が舫つてあった。

主屋の玄関の向かい側の畑の中に「宮川早生温州みかん」の原木が低い柵で囲まれたようにしてあった。

私の家は宮川の家と遠縁にあたり、宮川の家には子供の頃よく出入りをして

いた。宮川謙吉

氏はすでに亡くな

っておられて、夫人の千幹さんが家を守っておられた。千幹おばあさんの長男の浩さん

は内科医で東京に住んでいたが、戦時中家族は柳川に疎開して来ていた。浩さんの三男

の謙三君（高三、のちに九大教授）が城内国民学校の同級生になったり、また私が戦後

中国の青島から引揚げて、一学年下がって城内国民学校に戻ったら、今度は千幹おばあさんの次男の潔さん（父の友人で当時袋町居住、外科医）

の長男の壯君（のちにカメラマン）と同級になるということがあって、宮川家との親密度はより一層深く濃くなって

いった。

現在、坂本町の宮川の屋敷

27.11.10.(水)産経

イタリアではミカンもブドウもタネ無しはほとんどない。ところが、最近わが家が購入するミカンは甘くてタネがない。八百屋に聞かされたところ、「ミヤカワ」という名前だという。なんと日本名ではないか。早速調べたら、温州ミカンの早生の一種で、1910年ごろ現在の福岡県柳川市の宮川氏宅で発見された原木の改良種、つまり日本原産ミカンであるという。ゲータの小説を原作にトマが書いたオペラ「ミニヨン」で

日本のミカン

も、「君よ知るや南の国、香る風にオレンジの花」とあるように、イタリアは昔から「柑橘類王国」として名高い。作付面積もシチリアを中、イタリア市場を席巻する日本心に17万畝に及ぶ、60%がオレインジで、マンダリン（つまりミカン）類が22%、レモンが16%で、柑橘類は重要な輸出農産物である。この王国によくぞ日本種が入り込んだものだと思心したが、

「ミヤカワ」は収穫量や甘みなどの点で優れているため、すでに約20年前からシチリアで栽培が始められていた。

原産のリンゴの「ふじ」、評判の良い日本種のコメ、値段は高いが味の良さでは定評のある和牛肉でも分かるように日本の農業・畜産技術は非常に高い。

環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）の締結などで弱気になることは全然ないと思うのだが。

（坂本鉄男）

は無くなってしまっていて、その跡地には数軒の家が建っているが、かつての屋敷跡の一角に「宮川早生温州顕彰碑」がひっそりと、しかし堂々と建っている。その後ろに原木第二代樹が植えられている。

私達が小さい頃には美味いみかんといえ「宮川早生温州」であった。筑後となれば尚更であったろう。左に顕彰碑の碑文を紹介しよう。（原文のまま）

『宮川早生温州顕彰碑』

「福岡県山門郡城内村（現柳川市）の名家に生まれた医師宮川謙吉氏は、永く教職にあって、婦女子の薫陶に令名の高い夫人千幹女史とともに、旧柳川藩主立花寛治氏の勸農殖産の志をうけ、かたわら園芸を愛好し、立花家家令吉田孫一郎氏から温州蜜柑の穂木を譲り受けて、自邸内に自ら接木したところ、やがてその一枝に早熟で美麗な大果が結実しているの

を発見し、大正五年（一九一六年）立花家農事試験場主催の品評会に出品した。これを福岡県技師浅田岩吉氏が優良種と認めて増植を勧奨したことにより、県内に普及し始め、特に八女郡の持丸明三氏と山門郡の田中亀蔵、石井佐吉両氏は率先して、この種の苗木育成と高接につとめた。

農学博士田中長三郎氏は大正十二年（一九二三年）以来原木を調査した結果、主枝の一分枝が芽條変異として早生種が発現したことを確認し、大正十四年（一九二五年）これを宮川早生と命名して、学界に発表した。昭和四年（一九二九年）九州沖縄八県連合園芸共進会において、最優秀賞の賞を受け、以来本種は、樹勢強健、果型偉大、外観品質共に良好で、しかも農産性の経済的早生品種として、一躍広く業界に認められることとなった。福岡県は昭和十一年（一九三



六年）原木を天然記念物に指定しその保存に努めたが、昭和二十二年（一九四七年）おしくも枯死した。しかし、この原木の一枝から発した本種は広く全国に普及され、早生温州の王座を占めて、その栽培面積は、福岡県一十ヘクタール、全国一十ヘクタールに達する盛況をみるようになった。わが国の柑橘産業の飛躍的發展はこの宮川早生におうところが、まことに大きいことを銘記すべきであろう。

宮川早生発生以来五十年、ここに原木発祥の地を選び、原木第二代樹を移植、そのほとりに顕彰の碑を建てて永く後世にその由来を伝えたい。」

宮川の家を訪ねた折に、時期にはよくこの美味しいみかんをご馳走になった。また、千幹おばあさんには可愛がっていたので、「健之輔さんが来たから美味しいお茶を入れようか」と言って、並んだお茶の缶の中から上等のお茶を取り出して入れて下さった。ケンちゃんではなく健之輔さんであった。「ケンちゃんは二人おるからね」と。謙三君のケンと私のケンである。九大では謙三君は経済学部で私は法学部、そしてお互いに基敵であった。

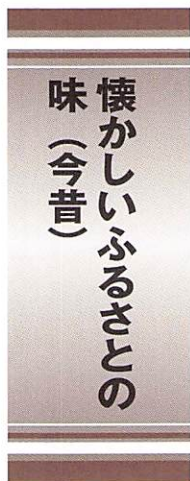
宮川千幹女史について少し触れてみる。小柄な人だったが女傑であった。ご本人から聞いたような気もするが、そうでなかったかもしれない。ご父君に「お前は器量が良うなけん学問ばしなさい」と言われたとか。それで、まだ山陽道に鉄道が通っていなかった時代に、船

で大阪行つて梅花女学校（現、豊中市の梅花高等学校）に入学、次に東京に出て発足間もない東京女子高等師範学校（現、お茶の水女子大学）で学んだという、当時稀に見る高学歴の女性であった。柳川の婦人会の会長を50年以上務められて、教育功労者として藍綬褒章を受章された。私はその褒状と褒章を見せていただいた。現在、日吉神社の隣りの婦人会館の前にその座像が建てられている。

千幹おばあさんの次男の潔さんの、その長男の壯君は子供のころからの友人だが、名古屋に住んでカメラマンをやっていた。或る日彼から便りが来た。そして新聞記事のコピー（前ページ参照）が添えてあった。それを紹介する。

「前略 ちよつとうれしい記事を見付けたので送ります。イタリアで宮川早生とは。佳い御歳をお迎えください。11月13日 宮川」と。

平成27年11月10日（火）付の産経新聞の記事の切り抜きであった。イタリア在住の坂本鉄男さんの「イタリア便り……日本のミカン」という記事である。宮川早生温州が世界に広まっている話である。私も嬉しくなったことだった。



ふるさと柳川を離れて暮らすようにな

つてもう久しい。しかし、ふるさとの味のあれこれは、私の脳裏にそして舌に刻み込まれていて忘れることはない。私は食いしん坊である。この歳になつてもまだ美味しいものを追い求めている。

ふるさと柳川には美味しいものや珍味が沢山あったし今もある。そのあれこれ思い起こし、舌なめずりをして思いを巡らせてみたい。

一、菓子類や甘味

1)「越山もち」と「越山餅」(こつさんもち)

これは柳川を代表する銘菓である。昔、知人や友人を訪ねる折に持参する手土産は「越山餅」(もち)か、水産堂の「貝柱粕漬」と相場が決まっていた。



「越山もち」は勿論「越山」(こつさん)で作っている。目抜き京町に店を構える老舗である。白餡を求肥で包みその上に和三盆を振った小振りの餅菓子だが、求肥のえも言われぬ柔らかさと餡の甘さに、和三盆糖の上品な甘さが加わり、その絶妙のバランスが素晴らしい。

ところが「越山」には2軒あって今述べたのは「梅花堂越山」(1861創業)で、もう1軒は「白雪堂越山」(1858創業)である。こちらも老舗で、かつては旭町に歴史を感じさせる小振りの店があったが、現在は細工町の南の方に移転して和風のシックな店を構えている。こちらのものは「越山餅」という。いずれも白餡を求肥で包んでいて味も似ている。甲乙つけがたい。どちらも大林姓なので先祖を辿ればルーツは一緒なのかもしれない。地の利からして「梅花堂」の方が繁盛しているように見受けられるが、「白雪堂」にも頑張つて欲しい。

いずれにせよ「越山餅(もち)」は美味い。「梅花堂」の最中「白秋詩碑」、ゆず風味の「からたち」、「丸ボーロ」も美味しい菓子である。洋菓子もやっている。「串だんご」も隅に置けない。昔は一串に3個だったと思うが今は2個である。しかし美味しい。女将さんは九十を超えてまだ元気だが、七十年ほど前は澁刺とした女店員で頑張っておられた。その後社長夫人になられ、店を切り盛りしてこられた。(一寸余計なことだが)「越山」(梅花堂)には学生の頃、2階のホールをレコードコンサートの会場として拝借したりして、たいへんお世話になった。今でも立ち寄ると「帰つてきとりめしたか」と女将さんに声をかけて貰う。昔は、やはり京町に「嘉月堂」という「越山」と並ぶ菓子舗があって、「越山餅(もち)」に似た「嘉月餅」という菓子を作っていたが、随分前に惜しまれながら店は姿を消した。立派な店だった。私の

記憶ではこの店も大林姓だったと思う。

2) 「米せんべい」

これも柳川銘菓の一つである。昔は先述の、今はない「嘉月堂」でも売っていた。その頃その主人が「米せんべい」を作る人がおらんようになりよとですよ」と



言っていたのを覚えている。今は上町の「坂田屋」(1914創業)だけで作っているし、売っている。私は柳川に帰ると時々立ち寄って、孫の土産にそして我が家にも「米せんべい」を求める。「米せんべいはあるかも」「あるばんも」「一つはいよ」と。やりとりもよい。軽く焙ってパリパリ割って食べるが少し甘みのある素朴な味が良い。いつまでも残して欲しいふるさとの味だが、作る人がいなくなると終わりである。宣伝もあまりしないので沢山売れる訳でもないのだから、絶滅危惧種である。その箱を包んでいる包装紙がまた良い。柳川弁や詩などが、ちりばめられ、印刷されている。よく見ると「斜庵」とある。なんと小野善睦さんのペンネームである。この伝習館東京同窓会会報の前編集長の小野善睦さんのプロデュースの包装紙である。

「米せんべい」の詩を一つ紹介しよう。
(小野さんにご了解をいただいた)

こめぜんべ 斜庵

「なかかんも」チさがし歩けど
「なかばんも」チ言う店ばかり
ああこめぜんべ

こめぜんべ「ノーナリヨル」チ
友の言うそらオーゴツタイ
ゾータンノゴツ

ホンナコツノナリヨルなら今
ンうち保存会などつくろやナカネ

柳河に一人や二人居るやろモン
こめぜんべ作るオバシャン

ホンナヨカオリが習うケンつく
りかた知つとる人バ探してくれ
んね。

こめせんべああこめぜんべ
その熱き
友の心かこのこめぜんべ

包装紙を読んでいて、ふるさとの情景をあれこれと思ひ出す。自ずと笑みがこぼれてくるのだ。「米せんべい」は美味しい。頑張つて欲しい。大事にしたい。

3) 「うちきり」と「あめがた」

京町と旭町そして細工町の交わる交叉点を北に曲がり小さな溝のような堀を渡

ると右の角に「大松下本舗」がある。今や入手困難な「うちきり」の製造元である。小粒の米飴の切り飴だが、絶妙の甘さ加減で美味かった。その他「あめがた」や「米おこし」も作っている。「大

松下」の長男の古賀正信君は柳城中や伝習館に入学した時の同級生だった。柳城中学の頃から高校の伝習館の野球部に入りしていた。いつの間にかマネージャーみたいになっていった。私も伝習館の野球部に入ったので親しくしていた。伝習館を卒業したかどうかは忘れたが、その後ご長命のお父さんと一緒に家業に励んでいた。彼は早逝したが、彼が

まだ元気な頃、たまに帰省した折に「うちきり」を買おうと訪ねて行って「元気にしとったか。うちきりはなかかね？」

と言うと、あっさり「なか」とつれない返事をする。兎に角気持ちとは裏腹に愛想の言えない男だった。そして「これば食べてみんか」と言つて作りかけの「あめがた」の切れ端を差し出したりするのだった。それを頬張りながら、もう一度「うちきりば何とかならんか」と言う

と、「でけん、予約で一杯で何ともならん」と。仕方なく「あめがた」を買った。「あめがた」も滋養のある飴菓子というか食べ物で出産のお見舞いなどに使われた。「米おこし」も美味しかった。

正信君も逝き最近では立ち寄ることもない。伝習館東京同窓会の総会の折には「あめがた」が売られているので、彼の息子か後継者が作っているであろう。あの「うちきり」はどうなっているのだろうか。今一度あの「うちきり」を舌の

上に転がしてみたい。自然の甘みは何とも言えず良い。鄙びた銘菓である。

4) 「くろぼう」、しろぼう、せんべい、たま」

昔は最近のように近くに菓子や駄菓子を売る店などあまりなかった。城内では黒門橋の東側のたもとに一軒駄菓子を売っている店があった。小遣いも無いので減多に行くことはなかったが、店の中には筒状のガラスのケースの中に色々な菓子が入れて並べられていた。代表的なものが「くろぼう」や「せんべい」や「たま」だった。小麦粉の焼き菓子の長いのを斜めに刻んだように切つて黒砂糖を塗つてある。白砂糖を塗つたものが「しろぼう」である。いずれも筑後を代表する駄菓子であろう。埼玉でも久留米の駄菓子として売られている。甘いものに飢えていた子供の頃嬉しい駄菓子だった。

「せんべい」もあった。我々は「せんべ」と言つた。「味噌せんべい」「生姜せんべい」「玉子せんべい」など。落花生の入っているせんべいもあった。

松葉の形をした焼き菓子も香ばしくて美味かった。

次いで「たま」である。これは飴玉のことである。「飴玉」などとは言わなかった。所謂丸い飴玉にザラメをまぶしてある。小学生の頃音楽会に行く折に、母が「たま」をいくつか袋に入れて持たせてくれた。「これは舐めとくと良か声の出るとよ」と言っていた。出かける前から一つ口に入れた。甘いものは何でも嬉しかった。

5) 「串だご」(串だんごのこと)

「串だご」と言わないと気分が出ない。これは美味しい。昔は一串に4個か、3個だったと思うが、最近「越山」で見ると2個になっている。粒は少し大きいように感じるが。水天宮の祭りの頃は「串だご」の季節である。事実いつでも美味しいのだが、季節感がある。

「お花」の前に黒田菓子店があった。この「串だご」は特に美味しかったように記憶している。城内小学校、柳城中学校、伝習館で同期の多鶴子さんという娘さんがいた。

伝習館の頃、今は亡き木原繁幸と2人、沖の端の水天宮の祭りに出かけた。

(3人組の1人でこれまた故人の中村信人は、当時盲腸の手術をしたばかりで北原病院で寝ていた) 帰りに「お花」の前を通りかかったら、向かいの「黒田菓子店」から多鶴子さんが飛び出してきて、木原に「信人さんのお見舞いに」と言っておて「串だご」の包みを呉れた。私はピンときたが「ありがとう信人に持って行くばい」と2人で受け取った。岡田さんの手前の田んぼのあたりに来たら、包みを開けて2人で食べ始めた。「盲腸の信人がこげんかつ食べられるわけはなかつ。これはヌシ(木原)に呉れたつゾ」と言いながら次から次と食べた。串はほいほいと田んぼに放り投げながら。実は多鶴子さんはその頃木原にぞっこんだったのである。(もう時効だから言うが)この「串だご」は実に美味かった。これほど「串だご」を食べたことは以後ない。それから北原病院に行つて信人を見舞い、

事のいきさつを話し、美味かった話をし、大いに羨ましがらせ、おまけに「ヌシから礼ば言うtotてくれ」と言つて、大いに笑つたことだった。最近「越山」のものしか知らないが、「串だご」は実に美味しい。懐かしい。

6) 「回転まんじゅう(回転焼き)」

戦後、甘いものに飢えていた頃、たまに食べる「回転まんじゅう」は美味しかった。伝習館を出て南に向かう、南校舎(今市役所)を過ぎ城内小学校を過ぎると、布橋の交差点がある。この城内小学校の南の本町の通りの西側に堀があつて、福厳寺まで続いていて、堀の上にはちやんと布橋が架かつていたことを知っている人は少ないだろう。

この布橋の手前の堀のそばに、一軒の掘つ立て小屋のような小さな店があつて「回転まんじゅう」や「焼き芋」をやつていた。戦争未亡人の横山さんと小野村さんという2人の小母さんが生活の糧を得るために開いた店であつた。小さい子供を抱えて細々とかつ忍耐強く頑張つてやつていた。素人で始めたので餡の出来栄えがどうだったのか記憶にないが、美味しかった。当時飢えていた中学・高校の頃の我々にとつては最高の美味だった。時には「焼き芋」も食べた。大きな甕の中に針金で吊るして焼いていた。そのお二人は頑張つて小さな店を守つて、子供たちを立派に育て上げられたのであつた。偉いことだと思つて。今、布橋も様変わりしてしまつた。昔を偲ぶよすがもない。

7) 「丸ボーロ」

柳川に帰ると必ず「梅花堂越山」に立ち寄つて孫たちのために「丸ボーロ」を買つて送つて貰う。南蛮渡来の焼き菓子だが、甘さ控えめの素朴な感じと味が良い。度々送つてやるので孫たちも味を知つてきた。「今度のは前のに比べると味が落ちるね」とか生意気なことを言う。早速「越山」の女将さんに電話して孫たちの評価を伝える。すると「アラ、そーかんも。すみません」と返事が返つてきた。

「丸ボーロ」は佐賀の「北島」が有名だが、柳川のものも遜色ないように思うのだが如何であろうか。美味しい「丸ボーロ」を頑張つて作つて貰いたい。

8) 「アイスケーキ・アイスキャンデー」

子どもの頃、夏には「アイスケーキ」売りが回つて来た。自転車の荷台に大きな四角のアイスボックスを載せ、「アイスケーキ」と書いた小さな職をはためかせ、チリンチリンと鈴を鳴らせてやつてくる。夏の風物詩であつた。夏は暑い。エアコンやクーラーなどどこにもない。冷たいものが無性に欲しいのだった。冷たいものといえば氷のカチ割が普通で、「かき氷」や「アイスケーキ」は上等の水菓子だった。長い串に甘くて果物の色のついたアイスの丸い棒を「アイスケーキ」と言つた。四角の棒もあつた。これを「アイスクャンデー」といつたかもしれない。当時「アイスケーキ」を作つて

の菓子の老舗「梅花堂越山」でも作つていた。店の右手の通りに近いところに冷却機があつて「タンタンクン……」と音を立てて機械が動いていた。

柳城中学の頃、私は野球部に入つていた。なにしろ、学制改革でできたばかりの中学でグラウンドがない。柳河小学校や城内小学校で練習をやらせてもらう。伝習館が対外試合で出かけてグラウンドが空いているときには、そちらも拝借する。ユニフォームやグローブなどは自前だから何とか工面するけど、共通の用具類は部費でということである。それが極めて乏しいのだ。そもそも校舎もなくて伝習館に間借りしていたのだから。ないない尽くしの中学生活、野球部活動だった。

そこで、用具代捻出のために、野球部として、夏休みに「アイスケーキ」売りのアルバイトをやつた。高校の伝習館がそのグラウンドで対抗試合をやる。また大牟田(三池製作所や四つ山鉦など)また久留米(ブリヂストンなど)の実業団同士の試合を伝習館のグラウンドでやる。結構観客が来るのである。その折に観客を当て込んで「アイスケーキ」を売ろうということである。

「越山」に交渉してアイスボックスを貸してもらつて、自転車で旗を立てて、伝習館のグラウンドまで運んで来て、借りた鈴でチリンチリンとやる。誰にもどこにも許可を貰うでもなく、勝手にやつた。とがめられることもなかった。「アイスケーキ」は売れ、バットやボールを買うことが出来た。2、3回は

やったと思う。自分たちも少しはしゃぶった。
柳城中学の野球部は南筑の強豪になった。

「夏の甲子園」

—100回の歴史と栄光の記録—

高5 江口 政司

高校球児でも何でもなかった者が「夏の甲子園」を語るのには、おこがましい気もするが、終戦直後の小学校高学年だった頃、初めて野球というスポーツを知った私は、その後、草野球に夢中になり、野球観戦にもよく出掛けて今日に至っているので、語るのをお許し願いたい。

昭和何年だったろうか、アメリカの進駐軍の野球チームが柳河にやって来て、試合をしたことがあった。対戦相手は思い出せないが、進駐軍は戦闘服に軍靴でプレーしたような記憶がある。同じ頃、大相撲の野球チームが試合に来たこともある。野球好きの横綱・前田山や力道山がいた。その他に、大牟田の実業団の試合も度々あった。阪神タイガースに似た黒いユニフォームを着ていたのが印象的だった。これらの試合をよく見に行っていたことが、私の野球への思い入れの始まりである。

昭和21年夏に中等学校（後の高等学校）野球大会が復活し、傳習館の野球部が活躍し始め、昭和22年の新人戦福岡大会で小倉中学を破って優勝した時は、柳

河じゅうが大騒ぎになった（※編集注）。この時、センバツ大会への出場権を得るも学制改革のため甲子園出場は叶えられなかった。優勝バレードする選手の姿は、草野球に明け暮れる小学生の私には英雄のように見えた。当時の一番の思い出は、昭和23年夏の高校野球福岡代表決勝戦で、山田善作投手を擁する傳習館が前年度甲子園の覇者・福岡一雄投手擁する小倉高校と対戦した試合を、小倉にあった豊楽園球場まで応援に行ったことだ。近所の親しい傳習館のお兄さんたちが連れて行ってくれた。惜しくも、延長11回1対0で敗れ、甲子園への夢が絶たれたのは残念だった。その夏、小倉高校は甲子園でまた優勝している。二連覇だった。もし、この代表決勝戦で傳習館が勝っていたら、甲子園の覇者になっていたかもしれない。今思えば、あの頃の傳習館は強かった。私が入学した昭和26年と翌年にも甲子園出場のチャンスがあった。26年は又しても小倉高校に、27年は三池高校に、いずれも決勝戦で敗れはしたけれど、県下の強豪校だったことは間違いない。

前置きが長くなったが、本題に入る。

一昨年（平成30年）の夏、全国高等学校野球選手権大会は100回記念大会を迎えた。記念大会に相応しい数々の名勝負があり、大阪桐蔭高校が優勝（春夏連覇）したことは皆さんご存知のとおり。

この100回の球史の中には、どんな記録があり、どんなエピソードがあるか、私は興味を沸いたので、大枚をはたいて

100回史（朝日新聞社発行）を買い求め、調べてみた。以下、字数制限範囲内で主なものを書いてみたい。

◎大会小史（100回史より）

・第1回 大正4年（1915）

大阪の豊中球場で開催。各地区代表の秋田中、早稲田実、三重四中、京都二中、神戸二中、和歌山中、広島中、鳥取中、高松中、久留米商の10校でスタート。京都二中が優勝。序ながら、傳習館中は九州地区予選に第1回から参加した数少ない学校（8校）のひとつ。誇らしい！

・第3回 大正6年（1917）

会場を西宮の鳴尾球場に移す。

・第4回 大正7年（1918）

代表校14校に。代表決定後、米騒動で本大会中止。

・第10回 大正13年（1924）

甲子園球場完成。この年から甲子園球場で開催。

・第11回 大正14年（1925）

高松商が優勝。深紅の大優勝旗が初めて本州以外の四国へ渡る。

・第27回 昭和16年（1941）

戦局深刻化！地方大会の途中で中止。昭和17年（1942）〜昭和20年（1945）は太平洋戦争激化で中止。但し昭和17年は文部省主催による軍事色著しい体育振興大会の一競技として野球大会が行われた。「幻の甲子園」といわれている。

・第28回 昭和21年（1946）

戦後初大会。西宮球場で再開。朝

鮮、満州、台湾の3地区は消滅し、代表校は19校に。浪華商優勝。

・第29回 昭和22年（1947）

甲子園球場で開催。小倉中優勝。深紅の大優勝旗が初めて関門海峡を渡る。

・第30回 昭和23年（1948）

学制改革で高校野球となる。小倉高が二連覇達成。

・第31回 昭和24年（1949）

小倉高の三連覇ならず。福岡投手が甲子園の土を持ち帰る。以後、負けたチームの恒例になっている。

・第34回 昭和27年（1952）

アメリカ軍政下の沖縄が東九州大会に参加が始まる。

・第40回 昭和33年（1958）

第40回記念大会。大優勝旗新調。柳井高優勝。

・第86回 平成16年（2004）

駒大苫小牧高優勝。深紅の大優勝旗が初めて津軽海峡を渡り北の大地へ。東北地方を飛び越えた。

・第92回 平成22年（2010）

興南高が初優勝。春夏連覇。深紅の大優勝旗が初めて沖縄へ渡る。

・第97回 平成27年（2015）

100周年記念大会。王貞治氏始球式。

・第100回 平成30年（2018）

第100回記念大会。大優勝旗新調。タイブレーク採用。

大阪桐蔭高が2度目の春夏連覇で優勝。金足農が秋田県勢として第1回の秋

田中以来の準優勝。

※第101回は履正社（大阪）が初優勝。

◎都道府県別優勝校ランキング

（複数回優勝校はその数で計算）

- ・第1位 大阪 13校
- ・第2位 愛知 8校
- ・第3位 東京、神奈川、和歌山、兵庫、広島 7校
- ・第4位 愛媛 6校
- ・第5位 京都、福岡 4校
- ・第6位 千葉 3校
- ・第7位 北海道、茨城、栃木、群馬、奈良、香川、高知、佐賀 2校
- ・第8位 埼玉、長野、静岡、岐阜、三重、山口、徳島、大分、沖縄 1校

※第1位の大阪はすべて戦後の優勝。戦前戦後を通じての優勝校は愛知、広島、和歌山、兵庫、愛媛だろう。東京と神奈川も戦後躍進した都県。最近では東京を筆頭にした関東勢と大阪のレベルが上がっている。

*東北6県は未だ優勝なし。大優勝旗は白河の関を越えていない。ダルビッシュ有、大谷翔平、菊池雄星などメジャーリーガーを輩出しているのに不思議である。また松井秀喜が出た石川県もなし。その他の優勝なしの県は、山梨、新潟、富山、福井、滋賀、岡山、鳥取、島根、長崎、熊本、宮崎、鹿児島、鹿

◎歴代優勝校ランキング

- ・第1位 中京商（中京大中京） 7回
- ・第2位 広島商 6回
- ・第3位 大阪桐蔭 5回
- ・第4位 PL学園と松山 2校×4回
- ・第5位 平安（竜谷大平安） 3回

- ・第6位 小倉、日大三、作新学院ほか 14校×2回
- ・第7位 三池工、佐賀商、池田、早実ほか 41校×1回
- 計98回

*中京商は戦前の偉業が光る。最近では大阪桐蔭が強過ぎる。間もなく広島商を抜き中京商に並ぶだろう。工業学校の優勝は三池工だけ。

*大会数が100回なのに優勝校回数が98回の理由：第4回が米騒動で、第27回が戦局深刻化により、地方大会のみで全国大会が中止になったため。

◎連覇の記録

- ・夏3連覇 中京商が唯一記録している。第17回（昭和6年）、第18回（昭和7年）、第19回（昭和8年）

因みに、3連覇に続くものとして、3年連続決勝進出した学校は

学校	1年目	2年目	3年目
和歌山中	第7回 （大正10年） 優勝	第8回 （大正11年） 優勝	第9回 （大正12年） 準優勝
PL学園	第65回 （昭和58年） 優勝	第66回 （昭和59年） 準優勝	第67回 （昭和60年） 優勝
駒大 苦小牧	第86回 （平成16年） 優勝	第87回 （平成17年） 優勝	第88回 （平成18年） 準優勝

*和歌山中と駒大苦小牧は惜しくも3連覇を逸した。駒大苦小牧の田中将大がハンカチ王子の早実・斎藤祐樹と再試合死闘を演じた

のは記憶に新しい。

*PL学園は桑田真澄と清原和博のKKコンビが1年生から3年間活躍した。

- ・夏2連覇 和歌山中が第7回（大正10年）と第8回（大正11年）に、広島商が第15回（昭和4年）と第16回（昭和5年）に、海草中が第25回（昭和14年）と第26回（昭和15年）に、小倉中／小倉高が第29回（昭和22年）と第30回（昭和23年）に、駒大苦小牧高が第86回（平成16年）と第87回（平成17年）に、それぞれ達成した。
- ・春夏連覇 昭和37年に作新学院が初めて達成した。この夏、エースの八木沢莊六が赤痢で戦線離脱。二番手の加藤斌投手が好投し優勝した。続いて、昭和41年に中京商、昭和54年に箕島高、昭和62年にPL学園、平成10年に横浜高、平成22年に興南高、平成24年と平成30年に大阪桐蔭高（2度は大会記録）が達成している。
- ・夏春連覇 夏の選手権と翌年春のセンバツで連覇。夏の主力だった3年生が卒業して新チームになるので難易度は高い。昭和5年／6年の広島商、昭和12年／13年の中京商、昭和35年／36年の法政二高、昭和57年／58年の池田高が達成している。4校のみ。

◎延長戦の記録

延長戦は数えきれないくらいある。球史に語り継がれているものだけ記述する。

- ・第19回（昭和08年）準決勝
明石中 0……………0—0
中京商 0……………1x—1

*史上最長。伝説の延長25回。25回裏無死満塁から一番打者の二塁ゴロで決着。中京商は決勝で平安中を破り、空前絶後の夏の甲子園3連覇を達成。

・第40回（昭和33年）準々決勝
18回引き分けの後の再試合
徳島商 3対1 魚津高

*坂東英二（徳島商）・村椿輝雄（魚津高）の死闘は夏から設けられた大会規定で18回引き分け。再試合で徳島商が勝つ。但し、優勝ならず。その後、坂東は中日ドラゴンズで活躍。今はタレント。村椿はノンプロの三菱重工横浜で活躍。

- ・第51回（昭和44年）決勝
松山商 0……………0—0
三沢 0……………0—0
18回引き分けの再試合
松山商 4対2 三沢高

*昭和の名勝負。史上初の決勝戦での延長18回引き分け。速球の太田幸司（三沢高）と制球の井上明（松山商）の壮絶な投げ合いは、延長15回裏に三沢高の勝利か？と思わせたが、ならず！再試合で松山商が優勝。みちのくへの深紅の大優勝旗は持ち越し。

- ・第88回（平成18年）決勝
駒大 1対1の再試合
駒大 0……………1……………0—1
早稲田実業 0……………1……………0—1
決勝再試合
早稲田実業 4対3 駒大 苦小牧

*平成の名勝負。37年ぶりの決勝引き分け再試合を制し、早稲田実業が初優勝。史上2校目の3連覇を目指した駒大苦小牧は準優勝に終わった。斎藤祐樹と田中将大の投げ合いは前述のとおり。

◎投手の記録

- ・長い歴史の中で完全試合は未だない。センバツでは2人いる。
- ・ノーヒットノーランを達成した投手は23人。その中で有名なものは、第25回（昭和14年）海草中の嶋清一が準決勝戦と決勝戦2試合連続の偉業。第39回（昭和32年）早稲田実業の王貞治が延長11回を投げ抜いた。延長戦での記録はこの一度だけ。第64回（昭和57年）佐賀商の新谷博（西武ライオンズで活躍）は9回2死まで完全試合の好投。最後に死球1個出したのは惜しい！メジャーリーグから帰った中日の松坂大輔は第80回（平成10年）横浜高で京都成章高との決勝戦で達成し優勝した。
- ・5試合完封で優勝した投手が2人いる。前述の海草中の嶋清一投手と第30回（昭和23年）で優勝した小倉高の福嶋一雄投手である。福嶋投手は福岡大会でも修猷館に1点取られただけ。傳習館も決勝戦で完封された。
- ・打撃部門の記録は個人記録の色合いが強いのでホームラン記録に留めたい。
- ・最多本塁打（通算）はPL学園の清原和博の9本、同（一大会）は広陵高の中村奨成（現広島東洋カープ）の6本、同（一試合）は清原和博と大阪桐蔭高の平田良介（現中日ドラゴンズ）の3本である。

他にも沢山の記録やエピソードがあるが、本誌の字数制限に達したので、これで終わる。
「夏の甲子園」は次の100回に向けて

更に発展し、これまでの記録も次々と塗り替えられていくことだろう。その輝かしい球史のなかに傳習館の名が響き渡ることを期待したい。
(平成31年4月7日記)



河骨の花

河骨は 山門二ツ河新村橋
夏に咲く花、小さき花
岸の澱みに咲く花よ
黄色く小さき夏の花
葉かけ清かに水面にゆれて
岸辺いろどる小さき花

どじょう めだかにしじみ ハゼ
じゃがいも たけのこ そらまめ盛り
田んぼ そろそろ田植どき
「さなほり」にぎわう 祭文語り
ホタル追う追う 夕間暮れ
まだまだ咲かぬ 河骨に
二つ三つと つぼみ見る

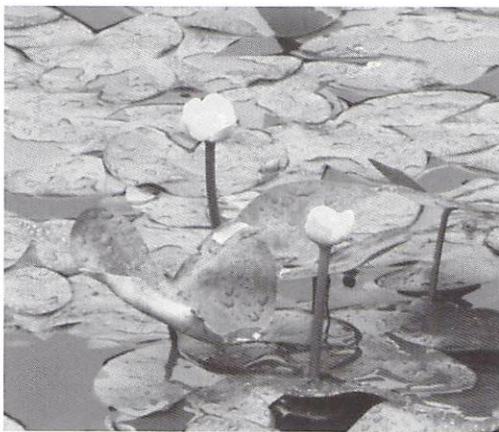
八月お盆過ぎた頃
十七日のお観音さん

おせつてふるまう女子たち
習い伝わる飾り付け
習い伝わる言いまわし

「お観音さんにメッテハイヨ——ッ」
夕暮れ日暮れ 灯りをともし
「お観音さんにメッテハイヨ——ッ」

お頭さんの言うこときいて一まわり
また一回り
そろそろ 人も絶えてきた
こころで終う おかんのんさん

吊したお飾り片づけて
女子の習い伝えを身につけて
盆すぎ十七 おかんのんさん
お頭さんを譲り譲られ
皆でねぎらう ごくろうさん
お月さんも につこりと
女子の習わし 見てござる
見てござる
楠の大樹も 見てござる



海は泣いている

源は山奥 矢部の奥
そのまた奥の山ひだを
静かに下る天の水

山門矢部川 二ッ河こえて柳川へ
戦の果ての 和の果ての
四通八達 幾筋ぞ
流れ流れて 幾春秋
ついに 不知火 干潟の原へ
古代の息吹き 今に在り
干潟の生命 永遠にあれ

あさり たいらぎ くつぞこ シヤツパ
豊かな、豊かな有明の海よ、
一体、どこに行ったのか

告知板

東京同窓会ゴルフ同好会の活動報告

高 37 石橋泰光

東京同窓会のゴルフ愛好家によりゴルフ部会発足！ 梶島正司先輩（高 16 回卒、同好会会長）を中心にゴルフ同好会を立ち上げ、下記の通り年 3 回のコンペを開催しました。優勝者はいずれもシニア勢で今後、若手の奮起が待たれます。令和 2 年度も春季（3～4 月）、夏季（6～7 月）、秋季（9～10 月）の開催を計画しておりますので、同窓会の皆様の奮っての参加をお待ちしております！

【第 1 回大会】

開催日 平成 31 年 4 月 18 日（木）
場 所 葉山国際カンツリー倶楽部（神奈川県葉山町）
参加者 8 名、優勝：古賀 行夫（高 18 回卒）

【第 2 回大会】

開催日 令和元年 7 月 26 日（金）
場 所 本厚木カンツリークラブ（神奈川県厚木市）
参加者 10 名、優勝：石川 滋（高 18 回卒）

【第 3 回大会】

開催日 令和元年 10 月 14 日（月・祝）
場 所 成田の森カントリークラブ（千葉県香取市）
参加者 8 名、優勝：西原正道（高 21 回卒）



【第 2 回寸評】

第 1 回大会に続き神奈川の名門コースに 10 人が参加。7 月の炎天下、紅一点の高 32 富重由佳女史も加わり、全員完走を目標にスタートしたものの、あまりの暑さに御年 95 歳の宮本弘道先輩が 3 ホールを残し無念のリタイア。スコアは、全体的に前回より好調でしたが、残念ながら 80 台はおらず…。石川滋先輩（写真左）がグロスではトップの 91、ネット 75・4 で貫禄の優勝となりました。

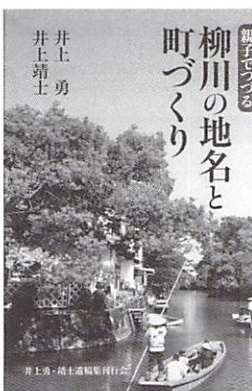
幹事：石橋（高 37 回卒）、山田（高 40 回卒）

創立二百周年記念事業資金募金について

伝習館東京同窓会の皆さんのもとへ「創立二百周年記念事業資金募金のお願い」が届いていると思います。これは福岡県立伝習館高等学校創立二百周年（県立移管百三十周年）記念事業実行委員会（実行委員長＝立花寛茂同窓会会長）が実施するもので、第 1 期は目標金額 700 万円、令和元年 10 月から令和 2 年 3 月 31 日までの期間受付中。以降 2 期、3 期、4 期（令和 5 年 3 月 31 日まで）、4 期にわたって 5000 万円を目標に行われます。

募集資金は三菱記念会館の空調設備の整備、生徒ロッカー一式の整備（以上ふるさと納税対象）や新体育館の緞帳の新調、正門一式の整備（以上基金への繰り入れ）に活用されます。このほか、記念誌、および同窓会名簿の発行、扁額の作成、伝習館校歌集の CD 作成が計画されています。母校の教育環境充実のため、東京同窓会会員も協力しましょう。詳細は各位に届いていると思いますので、ご参照ください。

新刊紹介



「親子でつづる柳川の地名と町づくり」

著者：井上勇・井上靖士
発行者：井上勇・井上靖士遺稿集刊行会
制作：海鳥社（福岡市）
Tel 092・272・0120

ジュータンの愛称で親生まれ伝習館の名物教師だった井上勇先生とその子息による共著。



「禁煙・受動喫煙教育新論-21 世紀 家庭・学校・地域社会からのアプローチ」

（A5 判サイズ、500 頁。五部二十二章構成）
著者：松尾正幸（佐賀大学名誉教授）。伝習館高 14 回（昭和 38 年卒）
・出版社 世論時報社（東京・世田谷区）
Tel 03・6413・6121
・定価 4320 円（本体価格 4000 円＋税）
・推薦団体：日本禁煙友愛会（本部・長野県伊那市）、非喫煙者を守る会（本部・札幌市）
・医学監修者 向井常博（前佐賀大学医学部長・教授）

40 年間の禁煙・嫌煙（非喫煙者保護）運動の成果を総括し世に問うために、出版を決定しました。伝習館同窓生の皆様の応援をよろしくお願い致します。（松尾正幸）

賛助金のお振込方法

- ① 同封の郵便振替用紙による ② 銀行振込による

銀行名 三井住友銀行 (銀行コード 0009) 鶴見支店 (店番号 572)
普通預金 口座番号 7329411 口座名 伝習館東京同窓会

いずれのお振込の場合にも必ず回生又は卒業年度をお書き下さい。



新事務局は以下の通り。
〒230・0073 横浜市鶴見区獅子ヶ谷1・9・1白谷方
伝習館東京同窓会事務局 ☎045・581・8193 (兼FAX)

広告募集

チラシ広告

対象Ⅱ東京同窓会会員向けに製品・商品・営業内容などをPR、販売したい方。
○チラシ二千部を作成し(フォーム自由)事務局宛送付下さい。
会員への会報送付時に同封郵送します。
○広告代金Ⅱ一件につき弐万円を賛助金として頂きます。
会員の皆様からも、希望業者の方をどしどしご紹介下さい。

募集中!

1. 表紙絵・表紙用写真
2. 原稿—伝習館OBならダッデンヨカバンモ
○テーマ—自由(同窓会報にふさわしいもの)
小説・随筆・詩・短歌・俳句・川柳・絵画・写真・書など
○字数制限なし・原則※常識的範囲で(原稿用紙使用、またはワード原稿をメールで送付)
写真・絵・カット添付可
○表題・投稿者氏名・卒業回か卒業年度を書いて下さい。
※原則10月20日〆切

—原稿送付先—
〒153・0051 目黒区上目黒3・21・19
伝習館東京同窓会会報局 北島 正常 行
E・mail・anc54684@nifty.com
☎・FAX 03・3713・6775
携帯 090・5532・0323

伝習館東京同窓会の Facebook
(https://www.facebook.com/pg/DensyuTokyo/posts/?ref=page_internal)

編集後記

○2020年が幕を明けました。今年には東京五輪・パラの開催年で、活気に満ちた年となりそうです。東京同窓会会報は今回も多くの方に投稿いただき、メモリアルの20号が発行の運びとなりました。その記念号として2003年(平成15年)正月に創刊号が発行されて以降、20号までの歩みをダイジェストで振り返りました。SNSの台頭で、紙媒体が縮小傾向の中、同窓会会報の存在意義も問われていますが、じっくり読め、行間から伝わる活字の良さも捨てがたいのではないのでしょうか。20号までに寄せられた稿からも、皆さんの思いが深く伝わります。今回は若手20代初の佐藤公治さん(高63回)からの投稿もあります。会報発行の趣旨を踏まえながら、今後とも皆さんの一層の会報活用をお願いいたします。(北島)

○Facebookで伝習館東京同窓会(この名称で検索)の情報を発信しています。またLINEでは伝習館東京同窓会学年幹事のグループを設け、連絡の他、意見交換などを行っています。こちらも活用して下さい。(池上)

○編集委員は次の通りです。

北島正常(編集長 高21)
内山秀生(高10)
永倉(跡部)素子(高10)
高栗和登(高20)
西原正道(高21)
池上英次(高35)

会長 白谷政則(高21)
副会長 樫島正司(高16)
副会長 原田(立花)万紗子(高13)
発行責任者 白谷政則

伝習館東京同窓会学年幹事名簿 令和元年12月現在

卒業年次	氏名	卒業年次	氏名	卒業年次	氏名
中学第55回	江崎和夫	第17回	浦川邦憲	第35回	土井啓郁
第2回(名誉会長)	江崎正直	同上	福山雅文	同上	大野美代子(山田)
第3回	酒井清行	第18回	吉田シヅカ	第36回	指田初代(藤木)
第4回	荒井健之輔	同上	十時理展	同上	猿渡由季子(渡邊)
同上	渡邊喜亮	同上	満生英二	第37回(常任幹事)	石橋泰光
第5回	岸 栄洋・洋子	第19回	芹川季代子(立花)	同上(常任幹事)	志牟田美佐
第6回	石橋 修	同上	田中茂利	同上	桑山 薫
同上	戸上軍治	第20回(常任幹事)	高巢和登	第38回(常任幹事)	金子千恵美
第7回	龍 弘道	第21回(常任幹事)	西原正道	第39回(常任幹事)	高橋 徹
同上	永江嵩子(測上)	同上(会長)	白谷政則	第40回	山田雅彦
第8回	池田孝人	同上(編集長)	北島正常	同上	千釜洋子
同上	一色康子	第23回(常任幹事)	樋口貴美子(田上)	同上	石橋美和
第10回(編集委員)	内山秀生	同上(常任幹事)	高田健二	第41回	古賀貴統
同上(編集委員)	永倉素子(跡部)	第24回	酒見和平	同上	下河敏彦
第11回	永尾弘行	第25回	稗田克彦	同上	鶴 由希子
第12回	小野アケミ(岸川)	第27回(常任幹事)	高橋圭介	第42回	長野健一
第13回	田中利道	同上	松藤峯成	第51回	本村泰輝
同上	尾田義昭	第28回(常任幹事)	吉開孝人	第54回	古賀智法
同上(副会長)	原田万紗子(立花)	第30回	橋爪政男	第55回	龍 幸弘
第14回	石橋俊一	第32回(常任幹事)	大山 恵	第56回	藤木 将
同上	高木節子(堤)	同上	一木亮之介	第63回	佐藤公治
第15回	後藤民子	第33回	高椋佳夫	第65回	吉岡和政
第16回(副会長)	椛島正司	第34回	梅崎達也	第66回	池田真由
同上	水澤昭子(田中)	第35回(常任幹事)	池上英次	第67回	松尾康平



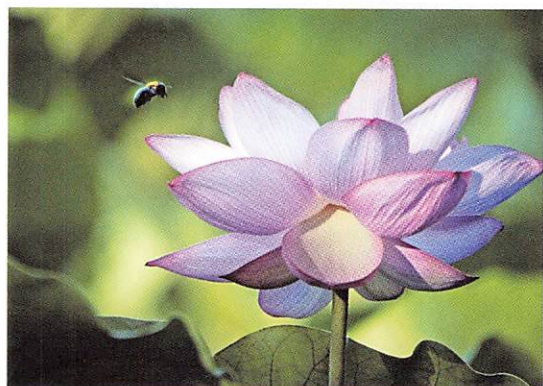
「寒椿」

高5 岸洋子



「御堂」

高5 岸洋子



「ミツバチと蓮の花」

写真=高14 高木節子

裏表紙の「富士に月」も同



「どんこ舟溜まり」

写真=高12 石塚武美



墨象「南の風に乗って」

高6 木村松峯（峯子）

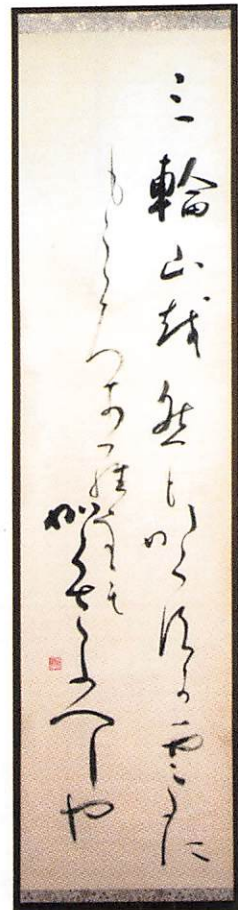
2018 世界大使館優秀美術作家大賞

三輪山をしかも隠すか雲だにも
情あらかなも隠さふべしや

万葉集卷一―一八

書 額田王（毎日展入選）

高6 木村松峯（峯子）



「富士に月」

Facebook = 伝習館東京同窓会



伝習館東京同窓会事務局

〒230-0073 横浜市鶴見区獅子ヶ谷 1-9-1 白谷方
TEL 045(581)8193 FAX 兼用